第13回
全道造形教育研究大会

1963／7.31（水）～8.1（木）

会場／余市町立黒川小学校

大　会　日　程

	8 30	9 20 30	10 00	11 50	13 00	16 00	17 00
7・31	受付	特設公開授業	開会式 オリエンテーション	パネルデスカッション	昼食 12 00 リクリエーション	分科会 15 00 15 30 15 50	パーテー（希望者）
8・1	受付	部会	作品の見方	昼食	講演	綜合報告 会 部会 閉会式	

◇ 連盟の研究主題の経過と大会地

1. 情操教育振興の一環として本道図工教育の進展を図るため。　（26年）　札幌市
   ① 各地に於ける図工教育の実態に立つた共通的問題の究明。
   ② 全道小学、中学、高校、大学教員の団結を図り組織の結成をはかる。
2. 美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。　（27年）　札幌市
3. 美術教育における指導とはなにか。　（28年）　旭川市
4. 図画工作教育実践上の諸問題について。　（29年）　函館市
5. 図画工作教育における学習指導上の問題点の解決。　（30年）　釧路市
6. 造形教育においてつくり出す力を養うにはどうしたらよいか。　（31年）　札幌市
7. のぞましい造形教育における具体的諸問題について。　（32年）　室蘭市
8. 図画工作学習によつて児童生徒の人間性がどのように培われるか。　（33年）　小樽市
   ―― 現場の実践を通して ――
9. 新段階における造形教育のあり方。　（34年）　帯広市
10. 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう。　（35年）　網走市
11. 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え、何をすべきか。　（35年）　滝川市
12. 子どもが生活をみつめて造形的に高まつていくために私たちはどうしたらよいか。　（37年）　名寄市

第13回 全道造形教育研究大会

主催　北海道造形教育連盟
余市町教育委員会
北海道教育委員会後志地方教育局

後援　余市町
余市町教職員研修会
北教組後志地区協議会
余市町連合PTA

☆表紙の絵
福田優子
（後志余市町立沢町小学校）
特殊学級6年

オリエンテーション――研究主題――

高橋栄吉（札幌市北九条小学校）

子どもが生活をみつめて造形的にたかまつていくために吾々はどのようにしたらよいか。

1. 幼、小、中、高のつながりに立ち学習内容の系統づけをしよう。
2. デザイン、工作領域のたちおくれについて考えよう。
3. 子どもの生活と造形活動のつながりを作品を通して考えよう。

◦ 設定理由　1. 造形教育の現状化から。

(イ) 生きた造形能力から高い造形能力へ（第三次産業革命の背景）

(A) 技術深化と原子力産業革命、オートメーションメカニズムに伴う産業底辺の二重構造優劣能力差と活動領域の分化・人間疎外と教育内容の老朽化。
(B) 末止り的固定学習と主体的創造態度の形成学習・二十一世紀への生活力の素地形成、芸術認識の形成過程の実証的分析と発達段階。
(C) 造形文化と生活矛盾・教材構造とその発展系統の確立、非指示的助言の手続指示による指導法の明確化。
(D) 教材の中心観念と基本要素の把握・造形能力の可能性と指導の視点。

(ロ) こどもの生活に密着した学習から強い生活力へ。（社会構造における哲学的背景。

(A) 現時点の生活条件と生活様態の矛盾性を追求・没個性的社会進展と自己主張の活動力。
(B) 造形文化の創造力を生活を基盤とする視点におく・フォルムやパターンを人間の生命と相関々係におく。
(C) 内的生活と外的生活の欲求と造形活動の指向。

(ハ) 研究到達点的性格の深化を更に実証から造形教育構造の再編成へ（第二次継続研究の背景）

(A) 造形活動の生活基盤への密着。
(B) 美術教育思潮と指導観の定着。
(C) 生活構造の実態と造形文化の機能、機構領域への開拓。
(D) 一貫性に立つ造形認識の発達の実証性、芸術教育の系統性の性格と確立対策。
(E) 教材構造の再編成とその発展的系列の構成。
(F) 学習過程の実践的分析と指導法の明確化。

2. 造形教育の地域性・特殊性から。

(A) 造形文化の急進性と造形教育の本質的使命の確認。
(B) 地域の個性と造形能力の観客性。
(C) 特殊条件における造形能力の可能性と指導の具体等。

◦ パネルデスカッション

(A) 小、中、高の一貫性に立つ、造形認識の発達教材構造の発展系列を指導体験から考察する。
(B) 造形教育構造の再編成と系統性の性格を明確にする。
(C) 系統性を確立するための手続きの具体策を樹てる。
(D) 現代における造形文化の生活構造と造形教育の使命を相関的に究明する。

◦ 分科会

(A) 領域の独自性とこどもの生活との相関性を掘起こす。
(B) こどもの生長と造形生活をいかにとらえるか。
(C) 学校機構と特殊児童の造形指導の実態と指導の核心を究明。

◦ 部会

(A) 学校種別の特性を発達能力と系統から位置づける。
(B) 具体的系統性の確立の手続とその対策を樹てる。

◦ 鑑賞・評価　◦ 実践例による指導法の研修をする。

日　程　内　容

7月31日（水曜日）　受付　8.00～8.30

1. 特設公開授業（8.30～9.20）

学校種別 学年	題材 領域	授業者	学校種別 学年	題材 領域	授業者
小 1	かたちならべ 模様	余市町立沢町小学校 三浦 宗	小複1.2	うみのなか 共同製作	余市町立豊丘小学校 松浦孝子
小 2	はたらく人 描画	余市町立大川小学校 寺沢一郎	小特殊	水族館を見学したこと 描画	余市町立大川小学校 芳賀豊
	海水浴 共同製作	余市町立沢町小学校 砂川時夫	中 1	素描（石膏デッサン）	余市町立旭中学校 板埋玲子
小 3	もようつくり デザイン	余市町立黒川小学校 高橋繁治	中 2	状さしの デザイン	余市町立西中学校 小泉哲
小 4	町の人々のくらし 版画	余市町立沢町小学校 今八重子	中 3	状さしの レンダリング	余市町立東中学校 岡田州弘
小 5	トーデムポール 工作	余市町立黒川小学校 吉田敏之			

2. 開　会　式（9.30～10.00）

1. 開式の辞
2. 挨　拶
   - 北海道造形教育連盟委員長　野村英夫
   - 余市町教育委員会　教育長　大浦幸一郎
   - 北海道後志地方　教育局長　中藤哲郎
3. 祝　辞
   - 余市町長　坂本角太郎
   - 余市町教職員　研修会長　横谷静夫
   - 余市町連合ＰＴＡ会長　田中房太郎
   - 北教組後志地区協議会長　森崎義美
4. 講師紹介
5. オリエンテーション
6. 閉式の辞

（10.20～11.50）

3. パネルデスカッション

―― 造形教育に於ける学習内容の系統性をこう考える ――

司会	伊東将夫	（札幌市桑園小学校）
提言	正木　正	（後志野塚小・中学校）
	長谷川　伝	（札幌市曙小学校）
	吉田徳夫	（宗谷浜屯別中学校）
	中村矢一	（札幌月寒高等学校）

4. リクリエーション

余市町豊浜正調ソーラン節保存会　会長　山科幸治氏　外15名出演

5. 分科会　共通テーマ

1. 造形能力を高めるための用具、材料について話し合いましょう。
2. 鑑賞評価の在り方や方法について話し合いましょう。
3. 子どもの作品を通して問題を究明しよう。
4. 幼、小、中、高のつながりの上に立つて話し合いましょう。
5. 造形活動を進める上に設備施設の問題を話し合いましょう。
6. 現場で作られた教科課程の問題点を話し合いましょう。

番号	部門	テーマ	司会者	提言者
1	父母	子どもが育つ上に作つたり、描いたりすることがどんな役割りをしているか話し合いましょう。	一橋　精（後志岩内西小） 服部英夫（後志来岸小）	坂本シズ（後志銀山中学ＰＴＡ）
2	幼稚園	幼児のイメージや感動を生き生きと表現させるためにはどのような指導と環境が望ましいか話し合いましょう。	（荒木アイ）札幌桑園小	（荒木アイ）札幌桑園小
3	小 描画	子どもの生き生きとした生活を表現に結びつけるためにはどう指導したらよいか話し合いましょう。	寺舘国治（三笠市奔別小） 越田一喜（函館市千代田小）	武川康彦（後志余市町沢町小）
4	小 版画	発達段階に応じて系統的にどう指導したらよいか話し合いましょう。	志村　猛（留萌市潮静小） 神田耕治（名寄市南小）	大森亮三（後志然別小）
5	小 彫塑	発達段階に応じて系統的にどう指導したらよいか話し合いましょう。	側瀬宇太郎（上砂川東小） 笹原　亮（札幌市苗穂小）	斎藤一雄（札幌琴似小）
6	小 デザイン	デザイン領域の低迷している原因はどこにあるのか話し合いましょう。	滝村虎雄（函館市船見中） 中川大三（札幌市東北小）	長谷川　伝（札幌市曙小） 小松崎勇三（後志赤井川小）
7	小 工作	発達段階に応じて素材をどう生かしどう指導したらよいか話し合いましょう。	伊藤　恵（学大札幌附小） 高橋彦七（夕張市福住小）	砂金　隆（札幌市山鼻小）
8	中 描画	中学生としての表現活動における創造意欲を高めるためにどうしたらよいか話し合いましょう。	富樫貞平（札幌市東栄中） 中川　清（札幌市一条中）	柴田義美（後志双葉中） 岩内広次（後志原歌中）
9	中 版画	中学校に於ける版画指導のねらいとその実践際について話し合いましょう。	木村晴一（網走遠軽中） 太田達雄（札幌市北辰中）	諏訪英雄（室蘭市鶴ケ崎中）
10	中 彫塑	中学校に於ける彫塑領域とその実践について話し合いましょう。	三上　亨（上川鷹栖一中） 三谷哲司（学大札幌附中）	吉田広仕（札幌陵北中）
11	中 デザイン 立体表現	中学校に於けるデザイン教育の問題点について話し合いましょう。	泉秀雄（旭川市神威中） 土岐禎次（札幌市中島中）	尾川和彦（後志蘭越中）
12	高 デザイン	デザインの具体的な進め方について話し合いましょう。	中村矢一（札幌月寒高） 寺井　孜（札幌北高）	中村矢一（札幌月寒高） 寺井　孜（札幌北高）
13	単複	単複校に於ける造形活動を活発にするにはどうしたらよいか話し合いましょう。	小山田武（釧路柏木小） 橋本　富（札幌琴似小）	初山　武（後志比羅夫小）
14	特殊	特殊教育に於ける造形活動の位置づけはどうあるべきか話し合いましょう。	石崎義政（室蘭市教委） 斉木果一（札幌啓明中）	伊藤潤楽（後志余市町沢町小）

6. パーテー　希望者による。

会費　200円

午后5時より　於　黒川小学校屋体

5月1日（木曜日）　受付　(80.00～8.30)

1. 部　会（8.00～8.30）

No.	部門	テーマ	司会者	提言者
1	幼稚園 父母	幼児のイメージや感動を生き生きと表現させるためにはどのような指導と環境が望ましいか話し合いましょう。	荒木　アイ(札幌桑園小)	(荒木アイ) 札幌桑園小
2	小学校	発達段階をふまえた指導内容とその系統性について話し合いましょう。	樋口忠次郎(小樽長橋小) 中山　啓(小樽天神小)	金井　秀男(札幌東小)
3	中学校	教育の全体構造の中で美術科の現状や、あるべき姿について話し合いましょう。	土門　孝(札幌一条中) 但野栄一(岩見沢東光中)	中川　清(札幌一条中)
4	高校	美術工芸のⅠ・Ⅱの教科内容を系統的に進めるにはどう考えたらよいか話し合いましょう。	中村　矢一(札幌月寒高) 寺井　孜(札幌北高)	中村　矢一(札幌月寒高)
5	綜合	子どもが生活をみつめ、造形的に高まつていくためには吾々はどのようにしたらよいか、その系統性について話し合いましょう	太田達雄(札幌市北辰中) 種市誠次郎(札幌大通小)	高橋栄吉(札幌北九条小) 吉田徳夫(宗谷浜屯別中)

2. 作品の見方

要領	司会者
1部……描画　2部……デザイン　3部……工作 資料提供者の説明後、数人により討論し大会主題にそつた結論へみちびく。	和田 芳郎（札幌琴似小） 遠藤 禾満（苫小牧東小）

3. リクリエーション

器楽演奏　余市町立黒川小学校児童　25名
指導者　久蔵正英

4. 講　演（13,00～15,00）

講師　白梅短期大学教授　井手則雄先生

5. 綜合部会報告（15.00～15.30）

6, 閉会式（15.30～15,50）

1. 開式の辞
2. 挨拶
   - 北海道造形教育連盟副委員長
   - 北海道造形教育連盟副委員長
   - 第13回造形教育研究大会事務局長　高野年男
   - 次回開催地代表
3. 閉式の辞
4. 連絡

◆公開特設授業　7月31日（水）8.30～9.20

学習指導案

余市町立沢町小学校　1年
男22名　女17名
授業者　三浦　宗

1. 題材　かたちならべ（もよう）
2. 目標　偶然に出来た色々な形の中から、或る物を発見させ意図的に構成させたものをグループ毎に台紙の上にならべていく。
3. 全体の指導計画　〔総時数　4時間〕
   - 1……切りぬきあそび。
     二つ折、四つ折にして自由にちぎり面白い形にして台紙にはる。……1時間。
   - 2……ちぎつた紙の形。
     自由に丸めたり、ちぎつたりして出来た。
     偶然の形から不思議な形、面白い形を発見する。……1時間。
   - 3……おした形。
     布ぎれ、丸めた紙などに絵の具をつけ、押して、出来た形を学習する…1時間。
   - 4……形ならべ。
     三次までに出来た形を空・地上・海の三分野に分け、台紙の上に構成させる。（共同製作）……本時 4/4。
4. 本時の学習指導

A　ねらい。
① 偶然にできた第三次までの形をもとにして台紙の上に美しくなるように構成させたい。
② 仲良く、いきいきと仕事が出来るようにさせたい。

B　準備。
児童　ちぎつた紙、押した形の切りぬき、糊、糊下紙、クレヨン、鋏、手ふき、布きれなど。
教師　台紙、他は児童に同じ。

学習活動	指導要点	留意点
導入 ◦学習の目あてをつかむ。	◦前時に整理した色々な形についての話し合いから本時の目あてをわからせる。	◦作品例の用意。 ◦児童の準備点検。
展開 ◦並べる題材は何々か。 ◦どのようにならべたらよいか。（話合い） ◦貼りつける。（共同製作） ◦描きたす。	◦台紙を示す。 ◦各グループの題材の確認。 ◦作品例により貼り方の相談。 ◦各グループの仕事の手順をつかませる。 ◦仲良く台紙に貼りつける。約束を守りながらいきいきと貼らせる。 ◦足りないところ、さびしいところをクレヨン、色紙、押しつけて、美しくなるように構成させる。	海、陸上、空の三つに限定し3グループ9枚の台紙に作業する。 ・糊つけの指導。 ・配置、色の組合わせ空間のあつかいかたに注意。 こん雑しないように順番を待つ。
まとめ。 ◦作品を見る。	◦どれが、面白く出来たでしよう。	みんなにわかるように発表する。

学　習　指　導　案

余市町立大川小学校　2年
男27名　女18名
指導者　寺　沢　一　郎

1. 題　材　　はたらく人（描　画）

2. 目　標

A　働く人のようすをかき、いくらか社会的な環境に関心をもつようにさせる。

B　活動している人物の表現になれさせる。

C　見たものをいきいきと描きだす態度を養う。

D　色をつくりだすことに興味をもち、色々の色彩をつかうことになれる。

3. 全体の指導計画　〔総時数　3時間〕

◦ 1……働いている人々を見学する。……（1時間）

◦ 2……働いている人を見た印象について話しあいをさせ、線がきをする。…（1時間）

◦ 3……彩　色……（1時間）本時⅔

4. 本時の学習指導

A　ねらい。

◦ 楽しんで色をぬる。

◦ 働く人々の力強さを頭にえがきながら色をぬる。

◦ 混色のおもしろさを知る。

◦ 平板なぬりでなく、変化に富んだ画面になるようにぬる。

B　準　備　　四つ切画用紙。水絵具用具。クレヨン。

C　展　開。

学　習　活　動	指　導　の　要　点
・本時の話し合い。	・下がきを見て、働く人の力強さを再現。 ・大胆なぬり方。
・用具の確認。	
・彩　色 水彩の混色を考えながらぬる。	・できるだけ混色にする。 ・特に変化のあるぬり方をする。 ・机間巡視によつて、彩色の相談を受ける。
・出来上つた作品について話し合う。	・特徴的な作品をとりあげ、話し合う。 ・あとしまつをしつかりさせる。

M　E　M　O

学　習　指　導　案

余市町立沢町小学校　2年
男31名　女21名
指導者　砂　川　時　夫

1. 題　材　　海　水　浴（共同製作）

2. 目　標

A　海水浴遊びをみんなで絵に表現することにより、共同製作の楽しさと造形活動への喜びを味あわせたい。

B　共同製作になれさせ、大画面の迫力と効果を味あわせたい。

C　構図や配色の能力を養う。

D　おたがいに協力しながら、学習に参加する態度を養う。

3. 指　導　計　画　〔総時数　4時間〕

◦ 1……海遊びと話し合い。……2時間

◦ 2……海水浴場の設計。……1時間

◦ 3……海水浴に来ている人達の姿態をかいて切りぬいて台紙にはる。……1時間（本時）

4. 指導の要点

A　ねらい　◦ 各自が海水浴に来ている人々の姿態を描き、これを切りぬいて大きな紙にはつて、海水浴場のにぎやかな雰囲気に浸りながら共同製作のおもしろさを味わう。

B　準　備　◦ 児童　　クレヨン、はさみ、のり、新聞紙。

◦ 教師　　台紙、画用紙。

C　本時の展開

学　習　活　動	指　導　の　留　意　点
導　入 ・泳ぎについての話し合い。 ・泳ぐ以外にどんな遊びがあつたか話し合う。	・陸、海、波等の区画を確認させる。 ・何をして遊んだか発表させ確認させる。 ・人のほかに、どんな物があつたかを知る。
展　開 ・海水浴にきている人の姿をかく。 ・これを切りぬく。 ・切りぬいた絵の裏に、のりづけさせ自分の好きな場所にはらせる。	・姿や形にこだわらず、大きくのびのびと描写するように指導する。 ・早くはりたいために粗末にならないように、又多く作りたいために乱暴になつたりしないように注意する。
整　理 ・どんな種類の泳ぎがあるか。 ・その泳ぎをやつている人は、どの人か等を話し合う。 ・後仕末。	・みんなで仕事をすることの喜びや、たくさんの人が、作れるおもしろさをわからせるようにする。

学　習　指　導　案

余市町立黒川小学校　3 年
男２２名　女２２名
指導者　高　橋　繁　治

1. 題　材　　もようつくり（デザイン）

2. 目　標　A　色の組み合わせを考えて、自由にもようを作る。
　　B　バランスやリズムなどに着目して、計画的な構成に慣れる。
　　C　材料経験を豊かにして、新しい発想・技法を育てる。

3. 全体の指導計画　〔２時間〕
　◦ 1……もようを作ることを知る。
　　材料を集める。……時間外
　◦ 2……もようを作る計画をたてる。
　　配色などの練習をする。……1 時間
　◦ 3……もようを作る。……1 時間（本時）

4. 指導の要点
　A　ねらい　◦ 計画に従つて自由なもようを作る。
　　◦ にごりのない着色で、すつきりとしあげる。
　B　準　備　画用紙、色紙、包み紙、紙ひも、クレヨン、パス類、水えのぐ、はさみ、のり、参考作品。
　C　本時の展開

学　習　活　動	指導の留意点
1. 作業前の話し合い。 ・どんなもようにするかをはつきりする。	・前時の計画を確認。 ・材料をそろえさせる。
2. 作　業 ・計画したようにどんどんもようを作つていく。	・材料をむだなく、効果的に使わせる。 ・構想どおりに進まぬ子や、作業上、苦心している子への助言など。 ・材料の活用は協力的にさせる。
3. 反　省 ・作品について話し合う。	・二、三の作品を提示して、製作上の苦心や、反省を発表させたり、他児童の批評などのべさせる。
4. 次時予告	・作品提出 ・あとしまつを協力しあつて。 ・次時の学習することを知らせる。

学　習　指　導　案

余市町立沢町小学校　4 年
男２７名　女２５名
指導者　今　　八重子

1. 題　材　　町の人々のくらし（版　画）

2. 目　標　A　郷土のくらしを理解し、個性豊かな版画表現をさせる。
　　B　版の特質や技法を理解させる。
　　C　共同で製作することのよろこびを味あわせる。

3. 全体の指導計画　〔総時数　4 時間〕
　◦ 1……どんな仕事をしているか話し合う。……1 時間
　◦ 2……グループに分かれて下絵をかく。……2 時間
　◦ 3……下絵をもとにして版画をつくる。……2 時間
　◦ 4……出来具合を話し合う。……本時……1 時間

4. 指導の要点
　A　ねらい　◦ 刷りの技法　◦ 自分の考えていた事と作品とのちがいを見い出す。
　B　準　備　◦ 謄写インキ、ルーラー、バレン、西洋紙、ロール紙、画鋲、糊。
　C　本時の展開

学　習　指　導	指導の留意点
◦ 用具のてんけん。 ◦ はなし合い、 　めあてと仕事の順序。	◦ 計画どおり用意されたか。 ◦ 目あてと仕事の手順をつかませる。
◦ 刷つてみる。 ・ためし刷り。 　ためした作品について話し合う。 ・本刷り。 ◦ 台紙に貼る。	◦ 刷り方の技法を指導する。 ・作品展示→　技法の確認。
◦ それぞれの作品について話し合う。	◦ 感想を発表させる。

M　E　M　O

学　習　指　導　案

余市町立黒川小学校　５年
男１９名　女２２名
指導者　吉　田　敏　之

1. 題　材　　トーテムポール

2. 目　標
- 木材を用いてトーテムポールを作ることにより、感情、感覚を意識的に造形して、凹凸のもつ力強さ、動きなどの表現力を養う。
- 彫刻刀、のこなどを使つて木材を切つたり彫つたりする作業になれさせると共に、共同作業の態度を身につけさせる。

3. 全体の指導計画　〔４時間扱い〕
- １……トーテムポールを作る計画をたてる。……1 時間
- ２……材料集め……時間外
- ３……トーテムポールの本体を作る。……2 時間
- ４……着　色。……1 時間（本時）

4. 指導の要点

A　ねらい
- トーテムポールに効果的な着色をさせて、力強さ、動きの表現を高める。
- グループでよく相談しながら作業を進め、協力、完成の喜びを味わう。
- 他のグループ、自分達のグループの作品について話し合い、民芸品などの鑑賞の初歩を身につける。

B　準　備
- 材料、トーテムポール、くぎ、接着材、ポスターカラー（教師）

用　具
- 彫刻刀、紙やすり、金づち、木づち、工作台（教師）

C　本時の展開

学習内容と児童の活動	指導の留意点
話し合い ・前時との関連。 ・今日の作業について。 材　料。 用　具。 作業上の注意。	・原色を用いて濃くぬることにより効果が上がることに気付かせる。 ・着色後少し彫つたりする方法もあることを知らせる。 ・じうぶにつなぐための工夫をさせる。
造形作業 ・着色する（彫る） ・つなぐ。	・材料用具の使い方が適切であるかどうか。 ・着色が逆効果とならぬように配慮する。 ・まつすぐに、じようぶにつながせる。
反省する ・自分達の作品。 ・他のグループの作品。 ・他の民芸品。	・自由な意見を述べさせ、作品の美しさを味あわせる。
次時予告	

学　習　指　導　案

余市町立豊丘小学校　１年　男子７名　女子７名　計　14名
２年　男子４名　女子５名　計　９名　合計　23名
指導者　教諭　松　浦　孝　子

1. 題　材　　うみのなか（共同製作）

2. 目　標
A　水泳講習　水族館見学と海に過した、楽しい思い出を表現させたい。
B　現実に見た海から児童に海中を連想させ、その想像の海中を豊かな想像力、創造力を十分発揮させて、児童の手で再現させてやりたい。
C　美しい海、いろいろな魚、海草、貝、静かな波の音が、やさしいメロデーでをかなでている。自然の姿にしたり、自由に表現させたい。十分な作品でなくても、児童が自分の力を発揮できるよう努力したい。

3. 指　導　計　画　〔２時間〕
- １……話し合いの後、海の色をぬつておく。……。
- ２……すきな魚、海草をかいて、切りぬき、好な場所につらせる。……〔本時〕

4. 指導の要点

A　ねらい。
自分の好きなものをかかせ、これを切りぬいて、糸をつけ、自分の好きな場所につりさげ、共同作業のおもしろさを味わう。

B　準　備
児　童　　クレヨン。
教　師　　画用紙、はさみ、のり、セロテープ、はり、糸箱。

C　本時の展開

学習内容	児童の活動	指導の留意点
話し合い。 やり方説明。	・海にどんないきものがいるか話し合う。 ・歌をうたう。 ・絵をかいてもらう。	・いろいろな魚をあげさせる。 ・海のようすを目にうかばせる。 ・いろいろな角度から、しぐさから種類を多くつくらせる。
魚のえをかく。 魚をつりさげる。	・美しい魚をかかせ、これを切りぬかせる。 ・適当なところに糸をつけ好な場所につらせる。	・色やかたちは自分の知つているもの、見たものと、ちがつていてもいい事を確認させる。 ・早くつりさげたいために粗末にならないように、又乱暴にならないように注意する。
話し合い。 後仕末。	・どの魚がすきか。 ・どれがきれいだか。 ・目立つ魚はどれか。	・みんなで仕事するよろこびや、多さんの人で作れる、おもしろさをわからせるようにする。

学　習　指　導　案

余市町立大川小学校　特殊学級
男 2名　女 6名
指導者　芳　賀　　豊

1. 題　材　　水族館を見学したこと（描　画）

2. 目　標　A　水族館を見学し、その中で興味のある場面を思い出し、大胆に素朴に自由な表現をさせたい。
B　共同製作を通して、協調性を養いたい。
C　共同製作の喜びを味わせたい。

3. 全体の指導計画　〔総時間数　4 時間〕
- 1……水族館見学。……（2時間）
- 2……線がき。……（1時間）
  - ・大胆に自由な表現をさせる。
- 3……彩　色。……（1時間）本時
  - ・色彩も自由にする。

4. 指導の要点
A　ねらい。
- 楽しんで色をぬる。
- 共同製作を通して協調性を養う。

B　準　備
ベニヤ　1 枚、壁紙　1 枚、粉絵の具、筆、水入れ。

C　本時の展間

学　習　活　動	指　導　の　留　意　点
◦ 本時の学習について話し合う。	◦ どんな表現でもよいという、安心感をあたえる。
◦ 彩　色。 ・自由に色を選択させ、自由に表現させる。	◦ 充分活動できるように心をくばる。
◦ 出来あがつた作品について話し合う。	◦ 何を表現しようとしたか。 ◦ よく協調したか。
◦ あとしまつ。	◦ あとしまつをしつかり徹底させる。

M　E　M　O

美術科学習指導案

余市町立旭 中学校　1 年
男 21 名　女 24 名
指導者　板　垣　玲　子

1. 題　材　　素　描（石膏　デツサン）

2. 目　標　A　絵画表現の基礎的能力を高める。
B　素描することの意味を理解させ、表現の態度、習慣を身につけさせる。
C　色々な材料や表現の異なつた作品を鑑賞し、その特徴やよさを味わい表現意欲を高める。

3. 全体の指導計画　〔4 時間〕
1. 色々な描画材料や表現の違いを教科書の作品によつて理解させ、素描学習の意味を知らせる。……1 時間
2. 対象をよく観察し形の要点をつかみ感動をすなおに表現させる。……2 時間（本時½）
3. 明暗を大きなマツスでとらえ、美しいと感じたことを、のびのびと表現し、作品を鑑賞する。……1 時間

4. 本時の指導の重点
1. しつかりつかみとる力を養う。
2. とらえた形を大づかみに表現させるようにする。

5. 本時の展開

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点	準　備
◦ 本時のめあてを決める。 ◦ 全体的なつり合を見ながら製作時間の計画をたてる。 ◦ 画面にどのように入れるか考える。 ・①中心線を入れる。 ◦ 大まかに描き顔の方向、目鼻口、髪の生えぎわの位置の見当をつける。 ・①線を入れる。 ◦ 明暗をつける。 ①鉛筆の使い方を考える。 ◦ 計画通りに出来たかどうか話し合う。	◦ 本時のめあてをはつきりさせ、特に大づかみに物をとらえさせる。 ◦ かたくならぬよう安心感をもたせる。 ◦ 観察し、かたまりとして石膏をとらえさせる。 ◦ 中心線を決定したい。 ◦ 作品を見て話し合いをさせる。 ◦ 鉛筆の使い方、消し方に留意する。 ◦ 巡　視。 ◦ 自分の作品と友達の作品をよく鑑賞し話し合わせ、次時の予告をさせる。	・画用紙 ・鉛　筆 ・画　板 ・画　鋲 ・比例をはかるひも ・画　架 ・その他、布、紙、（消すもの）

M　E　M　O

美術科学習指導案

余市町立西中学校　２年
男２１名　女２６名
指導者　小　泉　　哲

1. 題　材　　状さしのデザイン

2. 目　標

A　身近かな日用品の役割や機能について理解する。
B　着想にあたつて用に対する美的興味を深める。
C　用と美に立つて創作的なアイデアが展開できるようにする。

量
寸法
安定（さゝえ方）
おく
かける
つるす
よしかける

3. 全体の指導計画

1. 状さしの美的な構成について感覚的な理解を深める。……1 時間
2. 状さしの使用目的と機能性を考え立体的スケッチをさせる。……1 時間
3. 製作の方針を立て材料や用具をどのように整理していくか考えさせる。…1 時間
4. 計画にしたがつて製作させる。……2 時間（本時½）
5. 製作仕上げと鑑賞、反省。……1 時間

4. 本時の指導の重点

・立体デザインをする時の機能性とはどんなことか理解させる。
・用と美を生かして、創造的な作になるように工夫させる。

・ムセイの形のイメージをわかりにくいか

5. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	準備
◦学習の材料、用具をたしかめさせる。	◦確認する。	◦ダンボール
◦葉書などを収める機能的条件を上げさせる。	◦問題提示。	◦のり
・寸法、量、支え方。	・新しい感覚で作れるよう方向づけさせたい。	◦ハサミ
・条件について具体的に話し合わせる。 使用場所として 壁にかけるもの。 つるされるもの。 おかれるもの。	・条件を最少限度にして発想がしやすいようにしたい。 ◦イメージを生かして創造的な発想を育てたい。	◦定規
◦使用材料について話し合わせる。	◦技術的な抵抗を少なくして美的な感覚を養いたい。	
◦ダンボール・紙で製作させる。	◦生活にも広く応用できる能力と態度を養いたい。	
・接着面の確認をさせる。 次時を知らせる。	次時予告。	

美術科学習指導案

余市町立東中学校　３年
男子２９名　女子２６名
指導者　岡　田　州　弘

1. 題　材　　状差しのレンダリング

2. 目　標

A　レンダリングの意義と状差しの機能について理解させる。
B　状差しのデザインを通して生活デザインに対する関心を深める。
C　生活に即した造形の楽しさを知らせる。
D　日用品　家具等を選ぶとき感覚的にすぐれた作品を選べるよう鑑賞眼と選択力を養う。

3. 全体の指導計画　〔総時数　7 時間〕

1. レンダリングについて理解させる。状差しの機能について話し合う。……1 時間
2. アイデアスケツチをする。……2 時間
3. アイデア・スケツチにもとづいて（中間に加除訂正）レンダリングをする。（本時取り扱い）
   彩色仕上げをする。……3 時間
4. 反省、鑑賞。……1 時間

4. 本時の指導の重点

◦状差しの機能性について理解させる。
◦状差しのアイデアスケツチしたものを加除訂正させる。

5. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	準備
◦今日の仕事を確かめる。	◦話し合いを充分にする。	クレヨンペーパー
◦全体の話し合いの中からよいアイデアを見つけさせる。	◦固くならないよう安心感を与える。	鉛筆ＨＢ
◦アイデアスケツチをする。	◦フリーハンドで行う。	定規
◦反省、自分の作品をみて検討する。	◦用具の使用法について留意させる。	コンパス
	◦アイデア表現の喜びを味わせる。	各家庭の状差し
		参考資料

M E M O

◆パネルデスカッション　10.00～11.50

司会　伊藤奨夫
（札幌市桑園小学校）

造形教育が子どもたちの生活経験や興味・関心を最大限に尊重して行われて来たわけであるが、一面の成果と共に子どもが獲得した造形的思考や能力がいつも堂々めぐりに終つてその伸びを確認するに至らないのでないかという不安があり、過去数年にわたり様々の角度から論議されて来ている。ここに学習内容を系統化し思考や能力の積みあげを予想した造形学習を求める声が多い現状にある。

しかし、他の知的教科に見られるような易から難に積み上げる学習内容の系統性が、造形学習の場合もそのまゝあてはまるものなのかやはり問題が残るのである。造形教育の系統性とはどういうことなのか考えて行きたい。

更に従来幼、小、中、高それぞれの枠の中で考えられたこれらの問題を子どもたちの将来の育ちの中心に提える必要がある。幼、小、中、高の縦のつながりの中にゆるがない筋道を通すことが大切なことになつてくる。道内の現状から推してもこの筋道から造形教育の全体構造を捉えた構想にまだ接していない。この仕事はなかなか困難の伴う事柄であるが、是非やらなくてはならない問題であり、それぞれの地域活動の中で取り上げてほしいと思う。

討議の柱（例）　知的教科とのちがい

- 造形教育において、系統性を、どう提えたらよいか。
- 幼、小、中、高それぞれの立場の問題点と系統化について。

系統性が造形教育をささえるものではない
題材に系統性がない
造形的ルールを教えていく。

提　言

小学校　長谷川　伝
自・他をいつわらない表現力
（札幌市曙小学校）

幼、小、中、高の四者協議会の設置を提唱したい。

(1) 心身の発達にあわせて、大人が考え、学習形態、学習の系統などについて話し合う。

(2) 幼児教育の全身運動による表現活動と、小学校教育との結びつきを考える。

(3) 小学校と中学校とのコースをどう結ぶか児童が思春期にはいつていくころの学習態勢をどう考えるか。

(4) 高校受験のための学習をどう処理するか考える。

(5) 高校美術の推進策を考える。

中学校　吉田徳夫
（宗谷浜屯別小学校）

科学と美術

1. 美術教育を支える原理。
2. 中学校に於ける造形学習。
3. 中学校に於ける目標と領域。
4. 時間数について。

高校　中村矢一
（札幌市月寒高等学校）

学習内容の系統性として、幼、小、中、高と一貫した中に年令段階に応じ、子どもの知性と感性とが人間形成にまで発展させる。それが、特に高校に於ては、やや専門的な仕組みを加え、生徒の興味や能力とを考え教材配列し最後は自発的に美術をしたしませるところまでみちびく。

単複　正木　正
（後志積丹野塚小学校）

ヤハレスを与える
創造力は教えられない－個人それが身につけていくもの
発達や－創造力（自己的なもの）
適応や
行動を伴い表ごえる

行動力の発達に役立てて教えられるものを教える

◆分　科　会　13.00～16.00

第1分科会〔父　母〕

子どもが育つ上に作つたり、描いたりすることが、どんな役割りをしているか話し合いましよう。

司会　一橋　精（後志　岩内西小）
　　服部　英夫（後志　来岸小）
提言　坂本　シズ（後志銀山中ＰＴＡ）
　　内田　昇治（後志大江村銀山小）
記録　斎藤　敏子（後志余市町豊浜小）
　　川上　栄子（後志　〃　〃）

昨年名寄市に於て行われた第12回全道造形教育研究大会で討議されたことがらを記し、参考にきようします。

主題　作つたり描いたりすることが人間の成長にどう影響するか話し合いましよう。

問題　子どもに絵を描かせたり、物を作らせたりすることが、子どもの成長にどのように役立つのか。

問題の柱

Ⅰ　子どもの心理の成長の絵。
- 子どもの心理の発達（低学年―自己中心・中学年―まわりとのつながり・高学年―社会への仕きかけ）に応じた目を親がもつてやる。
- 発達段階を無理して、それ以上の絵を要求することはさけねばならない。
- 子どもは絵の中で欲求不満を解消していくことがある。不満を解消させる絵によつて成長をはやめていこう。

Ⅱ　あとは子どもの絵をどう見、どう指導したらよいか。
- 色や形等あらゆる面から、よい点を見出してやる。後で指導する。
- おとなの考えで子どもの考えをおさえてはならない。話し合うことが必要。
- 概念で絵をかくことをやめ、すなおに物を見る目をそだてよう。
- 書くための労力の負担を少くしてやることも考慮されねばならぬ。
- 親の助言によつて子どもの絵が定着してしまうことがある。よい発想がまた発想を生んでいくよう指導したい。技術的に変らない。

Ⅲ　描画にあらわれた児童の心理。
- 欲求不満を絵に表現することがあるが、原因をつきとめ、それを解消していくことが大切である。
- 色は児童の心理をあらわすことがあるが、それを有効に利用していく。いたずらにとらわれてノイローゼになつてはならない。
- 絵は子どもの心をそだてていくのだ。心のあらわれが絵になる。

Ⅳ　その他。
- 受験のため図工、体育等をさくのは美しい心、強い身体を作ることを否定するものでよくない。美しい心、強い身体で自信をそだてていこう。
- 子どもと親の写生会には非常によい点がある、進めていこう。

提　言

〃造形教育を私はこう考える〃

私は、造形能力を高める問題は、施設完備云々になく、人の側にあると思う。どんな物でも何気なく見すごさない習慣を身につけさせることが大切で、たとえば、道端の石ころでも、ふと蹴りそのままとか、或いは河原に遊び、無数の石ころが奏でる音もない生命の力価を直感しないことのないよう、子供達にじつと見つめさせて見ることが大切と思います。

そのうちに物体のもつ生命力というものを、全身に感じ、物の存在する力がどちらかに動こうとするような力を見出すに違いない。物体の力価を知るとき、個体が物体となり物体が躍動する。その感激を作るもの描くもの、に向けるとき、表現意欲となり、感激が強ければ強い程、良い表現となる、また造形学習の時間だけに限らず、常に良い環境におくということも大切なことと思う。それは、教室に入つて感ずることで、教室の環境が余りにも実用的過ぎることで、いたる所にべたばりに色々な作品が掛けてある。これでは考える訓練をする場として、神経が刺激されすぎるのではないかと思う。美と造形の要素をなすものは、無、空間から出発する。何も無いことは、実用では発明を産み、御伽噺ではお城と女王様を夢見、造形の世界では無限の幻想にひたり、創作表現となるのではなかろうか。だからあらある個所にだけに作品をおくとか、壁を一つの造形教材として点とか線を置き、子供達に無限の想像の泉となるよう。また、床に落る机の影と、光と空間の面白さを知らせ、家に帰れば、台所の一角にも、ヘラ、シヤモジ、スリコギ等ならぶ、無意識の創作の中の、抽象的なデザインを見るとき、抽象はわが国にも昔から存在したことを考えるのではなかろうか。

私は創作要素に「強い印象」を思いだします。子供は好きなものと嫌いなものと、共に強い感動をうけることを知りました。私の子供はよくお化けの絵を描きます。なかなか面白いと思つていましたが、ある時、とても憶病なのに気付きました。便所から出るにも、ハアハアいいながら出て来ます。それでいて、お化けの絵を好んで描くことを知りました。また、風景画の空の一部が燃えている。聞いて見ると「様似の火事さ」と答えた。見えない火事を描いた時間的表現である。

私は良い先生とは、実技云々より眠つている感受性を呼びさまし、対照を理解させ、表現意欲に引きこむことに成功した人を、良き指導者であると思います。

（坂本記）

第2分科会幼稚園〔B幼稚園・父母部会〕

幼児のイメージや感動を生き生きと表現させるためにはどのような指導と環境が望ましいか話し合いましょう。

司会　荒木　アイ　（札幌市立桑園小）
提言　〃　〃
記録　志津　照男　（後志岩内東小）
　　伊奈　玲子　（後志余市沢町小）
　　本間　静子　（　〃　〃）

—Ⅰ—

昨年名寄市に於て行われた第12回全道造形教育研究大会で討議されたことを記し参考にきようします。

主題　遊びの中の造形活動をいかにとり上げ指導したらよいか。

問題の柱

Ⅰ　学習材料・用具の与え方。
- 材料は入手可能な限り広範囲に与えるべきだ。
- 用具は安全性を考えるの余り神経質にならないように。
- 絵具使用は家庭の理解を得て早目に。
- 絵具使用に当つては、保管に留意すると共に前掛、作業衣など対策の要あり。
- 版画学習について研究の要あり。
- 遊びの道具として絵具などを与えない。

Ⅱ　集団・共同製作の場における扱い方。
- 製作にあたつて子どもの個性・子ども同志の考えを尊重し指導助言は慎重にし、発達段階を考え、子どもなりの考えをみつめてやりたい。
- 子どもに失敗感を与えない。
- 集団で製作するときはまとまりある作品は考えなくともよい。
- 集団の中でかけない子どもの指導についていろいろ研究してみよう。
- 家庭でまちがつた考え方で指導され画一的なものをかく子どもについては、ちがつた用具やちがつた表現方法を与え視野を広げるよう研究しよう。

Ⅲ　幼稚園・保育所と家庭のつながりについて。
- 教師はよい絵とわるい絵のみわけ方をみにつけるよう研究努力することが必要である。
- 良心的なコンクールに応募する場合の考え方について話し合つた。
- 評価についてまちがつた方向にいかないよう考えるべきである。

—Ⅱ—

もつとも多く討議され、いちおうは理解してきたと思われる問題点。

〃幼児画の見方、考え方。

1）幼児画を心理的に見、考える。
幼児画は、幼児の心と結びついている。
- 幼児は、見たとおりに描くのでなく、思つたとおりを描く。
- 心のわだかまりや、願望、感動を、意識せずに表現する。
- その絵の問題点は、、幼児の生活の問題点である。

⊙どこに問題があり、どのように理解し処理したらよいかを、知る。

2）幼児画を教育的に見、考える。
絵を描くしごとをとおして、人間性が高められる。
- 心のわだかまり、激情を発散し、無気力をよろこびに変え、精神を安定させる。
- 自分で感じ、判断し、実践する力、社会の中で自分をよりよく処置する能力をつける。
- 自由をかくとくし、生活に自信をもつ。

⊙正しい方向に育つているか、生活をどのようにしむけたらよいかを、知る。

3）芸術的に見、考える。
芸術教育は、ゆたかで強く、平和を愛する人間性をつくり出す。
- 事物説明でなく、感情を表現する。
- 芸術的要素が、自分らしく表現されることで、たのしく人の心をうつ作品となる。

⊙幼児画の芸術的要素とは何かを、知る。

以上三点は、たがいに表裏をいつており、〃幼児の生活を見、考える〃にほかならない。

父母の方々の理解には、すばらしい効果をあげてきたこの部会も、それだけに、問題は毎年同じところを低迷していると言える。いろいろなパターンの幼児画を多数見ることで、ことしのテーマを、もつとも効果的にすることを期待したい。

第3分科会〔小描画〕

子どもの生き生きとした生活を表現に結びつけるためには、どう指導したらよいか話し合いましょう。

司会　寺舘　国治　（三笠市弁別小）
　　越田　一喜　（函館市千代田小）
提言　武川　康彦　（後志余市町沢町小）
　　小尾　喬　（後志喜茂別町御園小）
記録　吉久喜代子　（後志余市町大川小）
　　川村　甚蔵　（後志余市町沢町小）

昨年名寄市に於いて行われた第13回全道造形研究大会で討議されたことを記し、参考にさせていたゞきます。

主題　内容のとぼしく生活に結びつかないような絵をかく子どもの導き方はどうしたらよいか話し合いましよう。

討議の柱と話し合われた内容

Ⅰ　なぜ子どもは自分なりに、自分の生活の実感をとらえられないのか。

◦子どもは生活の実感を持つている。実感を表現できるように指導しなければならない。

1. 教師は芸術づいてはいけない、子どもの生活をじつくり見つめなければならない。
2. 描きたいという意欲をくみ合わせて興味ある生活の中から題材をとらえていく。
3. 作品については劣等感を起させないように一つ一つの項目について細かくほめてやる。そして子どもに自信を持たせるように留意する。
4. 子どもの発達段階に応じて多くの画材を経験させる。
5. 物をよく誠実に見る態度を養つていきたい。

Ⅱ　好ましい好ましくないにかゝわらず、とらえられるものが、どのようにして絵となつて表わされていくものか。

Ⅲ　それでは、教師はそこにどんな指導がなされるべきか。

◦子どもたちは、学年が進むにつれて画きたがらなくなるが、これには一つの隘路がある。子どもの障害になるものはとり除き、画く方向づけをしてやらなければならない。

1. 子どもの関心がうすくても、興味を発見する場を設定することが必要である。
2. 学年に応じて色彩や技法をある程度指導しなければならない。
3. 高学年に進むにしたがつて、よく物を見させ、話し合いをさせ、そして表現にかかせるようにすべきである。
4. 暗い表現や、きたない表現などがあつても、内面のあらわれと認めた場合はどしどし表現させる。また精神的なものをあたたかくみまもり、心を豊かにしてやることが肝心である。

Ⅳ　では、どんな絵が生活に結びついた、内容の豊かな絵といわれるか。

◦子どもの生活の中から、卒直に感動が表現され生活経験が豊富に表わされる絵がのぞましい。

1. この問題については、児童の作品を掲示し、参加者がいろいろと作品についての意見を出し批評し合つた。

MEMO

第 4 分 科 会〔小版画〕

発達段階に応じて系統的にどう指導したらよいか話し合いましょう。

司会　志村　猛（留萌市潮静小）
　　神田　耕治（名寄市南小）
提言　大森　亮三（後志然別小）
　　佐々木昭二郎（後志黒松内小）
記録　滝内　利津（後志余市大川小）
　　佐藤　瓊子（後志余市大川小）

昨年度の名寄大会では彫塑と版画の領域が一緒になつていたために版画そのものについての話し合いは、広い範囲においてなされなかつたのではないかと思います。そこで、十一回大会、十二回大会で話し合われたり残されてきたと思われる問題点などを再整理してみました。

版画は技術や形式を教えこむのが主目的ではない、版画表現に伴うところの教育活動にその主なる目的があることは今更述べるまでもないでしょう。ですから私達は、版画という独自な造形活動が持つ教育的機能を明確にしなければならないと思います。そのために次にあげました事柄を問題点としまとめてみました。

1. 発達段階に伴う版画学習の系統化。
2. カリキユラムにおける版画の時間数と、その内容的系列。
3. 感動の表出と対象の把握。
4. 技術指導の最低要量とその方法。
5. 版画学習の抵抗性の排除について。
6. デザイン的発展と生活化について。

問題提起をされる方の内容を見ておりませんので、当日の話し合いの内容からそれるかとも思いますが、上にあげましたような事柄が過去二年間に問題になつてきものと思われます。これらの六項目は毎回どこかの研究会で出ているものでしようが、同じ問題を掘りおこすことも、われわれの指導を反省するよき材料となるのではないでしようか。（神田記）

提　言

1. 先ず、私の勤務している学校からみていこう。版画部門に限らず、図工科の用具設備と云えば、画板が40～50枚あるだけである。勿論、他の教科に関しても同類に近いわけであるが、理科、音楽、体育等の充実ぶりに比べて、図工科の立遅れは特別のようである。図工科は夫々担任の先生方が指導し、担任外の私は先生方にお願いして、やつと５年生の図工科をまかせてもらつているような現状で、版画の指導と云えば、一二の学級で紙版画をやつた事があるくらいで教材費の中から図工科に配分はまわつてこない。私が、他の先生方の希望を尊重するからである。これではいけないのであるが、私の立場上致し方ないのである。（担任外、雑用一手引受け）

2. ある小さな学校（二学級）から、この春版画指導を依頼されたのであるが、(私に依頼して来たのは、私の版画が日本版画展や道展に入選したから、版画教育にも造詣深いだろうと云う間違つた理由からである)。バレンとはどんなものかもよく知らない先生方のようで、それがこの学校に限らず、私の周辺ではあちこちに見られる現象であつておどろくに当らない。ここで２時間ばかり、小さなゴム版画を指導したが、始めて彫刻刀とゴム板を与えられた20人程の子供達のよろこびようは大変なものであつた。作品例で示す通り、幼稚未熟な結果で終つたのであるが子供達に版画を与えた効果は大きかつたと思う。又隣近の小規模学校の先生方も来ていて、あの程度なら俺達も出来る、やつてみようと云う気持ちになつたようで嬉しかつた。

3. 私の自分の学校での版画指導は、昨年今年と卒業した６年生に年賀状の指導をしたくらいで、お話にならないのであるが、自分の版画を育てる仕事をはじめて約３年、その間、子供達にまで及ぼし得なかつた事を恥じている次第である。今年になつて５年生の図工科を受持たせてもらつたので、今まで版画指導らしいものをやつた事がないようであつたが、思いきつて段階や系統を無視したかたちで、はじめての仕事として集団版画をえらんでみたのである。題材の設定に一苦労したが、子供達ははじめて手にするベニヤ板の抵抗性にてこずり乍らも、熱中して仕事に当つたのは楽しかつた。唯、彫り方、すり方の技術指導、彫刻刀の手入れ等で意外に時間がかかり、又児童の能力差が表面に現れたりして、これでは、不得意な先生方に指導させるのは無理なような気がした。やつて出来ない事はないが、現状では、先生方にすべての教科に精通する事を望むのは無理ではなかろうか？

4. さて、一足とびの結論のようであるが、私が堂々後志地区の教科別研究会などにも、馬鹿の一つおぼえのように、図工科の振興をはかるためには、教師の啓蒙もさることながら、設備施設の充実が先決であり、そのためには、理振法のような図工科振興法と云つたものを獲得して、設備を少くとも現状よりも高めることによつて教師の関心をも高めてゆく方法が必要ではなかろうかと提案しているのであるがここでもそれを発言したいわけである。
凹版用プレスを私たちの学校（６学級）に１万円程度のものを一基でも設備出来たらどうであろうかと思う時、いかに消極的な私であつても、先に立つて先生方をさそい、その使用法になれ、子供達に楽しいドライポイント学習を与える事が出来ることうけあいと思うのである。又、望むべくもないとしても６学級程度の学校なら大てい音楽室を持つているのであるが、それと同じに、図工科特別教室を持つ事が出来たら、ふだん多忙のために、技術研修など出来そうもない小学校の先生方にとつて、どんなによろこばしい事かと痛切に思うのである。私共図工科に関心ある教師達が、どんなに自個研修を重ねたとて、その他の教師達との間に、落差を大きくするばかりではなかろうか？こう云つた考えは余りにも他力本願的な考え方としての誹を受けるであろうか？

第 5 分 科 会〔小彫塑〕

発達段階に応じて系統的にどう指導したらよいか話し合いましょう。

司会　側瀬宇太郎（上砂川東小）
　　笹原　亮（札幌市苗穂小）
提言　斎藤　一雄（札幌市琴似小）
　　外本　達（後志蘭越小）
記録　成木　脩（後志余市大川小）
　　沢田　康弥（後志余市大川小）

今までの大会で討議された結果をまとめてみると、次のようになる。

◦ 素材と表現について。

1. 表現材料を多く与えたり、取材を広範囲に求めたり、又ある場合には材料によつて制限を与えたりして、創造的な表現をさせるようくふうすることが大切である。
2. 表現過程に於いては適切な指導助言が必要であるし、作品評価も作る過程を重視することである。

◦ カリキユラムについて。

1. 発達段階に応じたカリキユラムとは、素材の羅列だけではなく、又技術的な高まりだけではない。心象の深まりをよく捉えていなければいけないのではないか。

◦ その他について。

1. 施設の面では、焼釜を作つてもその管理運営に難点性がある。また作品処理の面ではその保護のし方や、場所に難点がある。

以上の過去のまとめによつて、本大会に残された問題点を挙げてみると、

1. 彫塑的表現（広い意味で）のねらう教育的効果はなにか。具体例を挙げて話しあう。
2. 彫塑表現の発卸段階について考察してみよう。
3. 彫塑学習においての系統性を、どう考えたらよいか。
　—素材の面から。
　　題材の面から。
　　技術的な指導の上から。
　—学習指導の上から。

前年度は、児童が自ら向上していくための手だてを指導の立場から考察されて話しあわれたのであつたが本年度は、更に表現指導の実態を具体的に掘下げて各々の場においての実例を提供しあつて、日々の実践に確認を得たいと願うものである。

提　言　（斎藤記）

図工科に於いて彫塑の指導について、子どもの発達段階にマッチしているかどうかを考えるとき。

・造形の要求が学年の段階に適しているか。
・表現と材料が学年の発達段階に適合しているかどうかを充分ねられていなければならない。

このような見通しの上での指導に次の事項について具体的に究明すべきである。

・現在の実態を把握し（設備、素材の不足を如何に補うか）どのような指導に持つていくかを充分考慮しなければならない。
・現場の子ども達の発達段階に応じた指導体系の具体細案を確立し、指導者自身その学年に応じた目標や内容、材料や用具、技法や形体各面より考察して、一応全体を把握しなければならない。
・子どもが心理的発達と共に、心象の表現と技術面とのずれを感じた場合にはどの程度までの指導をしなければならないか、この点について充分考慮をはらわなければならない。

	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	6　年
表現と材料	◉ゴム粘土でつくる ◦粘土であそぶ（補助材をつかう。	◉粘土	◉粘土	◉石けん・石こう・軟石をほる	◉れんが・木材（流木）石、雪などを加える	◉セメントで共同製作
造形要求	全身でつくる、あそぶ		立体のお→もしろさを発見	動きの表現（丸彫を主とする）物によつては浮彫	自然のままの素材のなかにひそむ形を発見させる	芯棒とか骨組みを作つて記念像など（共同）

～～～～～～～～ M E M O ～～～～～～～～

第 6 分 科 会〔小デザイン〕

デザイン領域の低迷している原因はどこにあるのか話し合いましょう。

司会	滝村　虎雄	（函館市船見中）
	中川　大三	（札幌市東北小）
提言	長谷川　伝	（札幌市曙小）
	小松崎勇三	（後志赤井川小）
記録	水野　輝	（後志積丹町美国小）
	鷹羽　一臣	（後志余市町旭中）

デザイン指導の研究はどのようにすすめられてきたか

1. 第4回より第9回まで総括すれば、デザインという新しい分野については、未だ充分に認識されておらず、重要性は話し合われているが、デザインの概念規定も明かではない。たとえば色彩形体とデザインというあらわし方、又図案指導、構成指導といういい方で、デザイン、構成、図案ということが、すつきり整理されていなかつたといつてよい。
2. 第10回網走大会の研究「豊かな適応表現をさせるためのデザイン指導はどうしたらよいか。」
   ①デザインとは何か、又そのあり方　◦ 指導要領では明確でないが旧来の図案作りとは違つた新しい表動がもりこまれている。　◦ 教育デザインとデザイン教育とは違う。　◦ デザインの用途実利を実施すると子どもの創造性が否定される。
   ◦ 小学校では子どもに豊富な実材を与え、そこから色彩の感情、配色などの原理をふまえた自由な効果的デザインを創造させるこに主眼がある。
   ◦ 発達段階により分化された形で、即ち公開的な方法により、効果的デザイン教育も与えたい。
   ◦ 教育は大人の世界に求めるのでなく、子どもの生活を豊かにするということに注意しなければならないだろう。
   ②デザイン学習におけるグループ学習について。
   ◦ グループ間で優良児の意見が通る危険性がある
   ③感覚訓練の方法　◦ 単に配色するだけでなく、その物の位置する環境を立体的に考え合わせていくことによつてみがこう。　◦ 教材はいたるところに存する。発見の仕方を考えよう。指導のポイントをとらえよう。
   ④結論　デザイン教育は子どもの自由な感覚をのばすのに主眼がある。
   ⑤残された問題。
   イ、デザイン教育とその他の領域との関係　ロ、基礎練習の方法　ハ、デザイン指導の系統づけはどうするか　ニ、教育課程自主論議の具体的方策
3. 第11回滝川大会の研究。
   A小学校「子ども本来の姿としてのデザインはどんなものか究明した仕事を紹介しあう」
   ①デザインの意義。
   ◦ 知的な面と感覚的な面とがある。どちらも高揚していつたらどうか。
   ◦ 科学的に妥当性ある人間を育てあげることが望ましいか、芸術的創造性のある人間を育てあげるのが望ましいか。
   ②デザインの領域について　◦ 全領域にまたがるものである。
   ③デザインの学年毎の発達段階について。
   ④デザインの系統性　◦ 構成要素という本質的ものから考えていかなければならない。
   ⑤機能としてのデザインを強くとり上げていくとどうなるか。
   ◦ 役立つものとは広義に考えてよい。
   B中学校「形や色を通してデザインとしての基本的トレーニングはどうしているか、新しい指導方法を紹介しあおう」
   ①デザインの意義　◦ 広義では風景の構成もふくまれる。◦ 狭義では生活設計を意味する。
   ②常に新鮮な感動をもたせるには　◦ 導入の方法と良いものをみせる。◦ 教えるものは技術で感動ではない。◦ 環境により感動は湧く。◦ 子どもに技術を与えるのではなく、ヒントを与えることにより生活の中より新鮮な感動をもたせることができる。
   ③色や形などの造形的感覚の基礎訓練をどんな方法でしているか、材料や素材をどうしているか。
   ◦ 自然物を利用しその中から美しいものを発見させる。◦ 線、面、点などで抽象構成をさせている。◦ 素材を一つに限定しないで周囲より集めさせている。
   ④感覚訓練、構能性の指導、生活造形に結びつける方法　◦ 具体物の外観、印象をとらえさせる
   ◦ 生活に密着したものから出発する。
4. 第12回名寄大会の研究。
   A小学校「生活を深めるためのデザイン学習を子どもの発達に応じてどう指導したらよいか」
   ①デザイン教育　◦ 領域の問題については西光寺講師の助言により心学表現（描画彫塑など）と適応表現（デザイン工作的）に分けることが適当で、デザインは適応表現に入れて考えたい。
   ◦ デザインは構造性、機能性、審美性も考えたい。
   ②デザイン指導の具体的問題。
   ◦ 低学年では子どもの生活全般に指導の配慮が必要である。◦ 中学年では模倣が強いので、特に独創性を強調し、個々の作品の長所を称揚して自信を持たせるようにすべきである。
   ③残された問題　◦ 色彩指導　◦ 技術指導。
   B中学校「デザイン学習の問題点と指導の系統性について話し合いましょう」
   ①デザインは有機的つながりをもつているので個々に分けられない。一応の目的をもつて人間が生活をおし進めていくための総合的な思考過程であり、目的のないものはデザインでない。
   ②基礎練習を発展させることによりデザイン学習になる。基礎練習のみではデザインとはならない。基礎練習、デザイン学習を高めることによりデザイン能力を養うことが必要である。
   ③残された問題。
   ◦ 基礎練習を造形活動としての全ての領域に各分野ごとでどのように系統づけ結びつけるか。

提　　言　（長谷川記）

低迷しているデザイン学習をこう見る。

(1) デザイン学習をどのように受けとめているのか？
- 子供のする造形活動をどのように理解しているのか。
- 技術的な面の指導に、ウエイトがかかりすぎてはいないか。
- デザイン学習の意味が、はつきりしているのか。
- 教師自身の問題をどう解決したらよいのか。

まず教育界全般のデザイン学習に対する理解が皮層なものでありはしないのか？だから、大人達の世界で考えられるデザインなるものが、子供の世界を牛耳ろうとしたり、単純に模様作りをして万事メデタシメデタシということになりかねない。
素朴な表現活動から始まつて、造形感覚をたかめるための練習や、創造的に又は、合目的、合理的な表現の基礎になる練習を、子供の心身の発達に応じて進めていこう。過去の図案教育のむし返しのようなものを、安易に子供に与えて、作品主義におちいることや、技術主義の上に立つた理論では、子供の造形意欲も、興味も失せてしまうにちがいない。

(2) 児童の内面的活動を盛んにしてやろう。
- 子供の欲求、関心、興味の度合。
- 子供の造形感覚の発達の程度。
- 子供の能力の程度　◦ 抽象する　◦ 綜合する　◦ 分析する　◦ 材料抵抗　◦ 技術的抵抗

このような、子供の表現以前の内面的活動を、盛んにすることこそデザイン学習振興の鍵と考える。すべての活動の中にこれらの芽が見出せるように心を配つてやりたい。既製の作品を提示して、作品を作らせるならば、簡単に同じような作品を作ることは出来るが、子供のデザイン感覚は完全に退行させられてしまう。

(3) 無意識的な造形活動を意識的なものに、より計画的なものにしてやろう。
- パタンガ出来る、壁が出来る。

ある型が示されると、子供達には、それを乗り越える力が弱小で、ついそれに屈伏してしまう。袋小路に行き当つて、迷つている子供の姿を見ると悲しくなる。又安易にその型をとり込んで、かたい殻を作り上げる姿もしばしば見受ける。
単一の学習内容を羅列しても、子供にはそれが生きた力としては出て来にくい。そこで子供の心象表現の中に、それらの芽を見付け出してやり、それを個々に伸してやることが望ましいと考える。

M E M O

第 7 分 科 会〔小工作〕

発達段階に応じて素材をどう生かしどう指導したらよいか話し合いましょう。

司会	伊藤　恵	（学大札幌附小）
	高橋　彦七	（夕張市福住小）
提言	砂金　隆	（札幌市山鼻小）
	坂口　清二	（後志岩内町西小）
記録	竹浪　敏雄	（後志余市町旭中）
	柳内　藤孝	（　〃　〃）

第12回のテーマ　地域にあるいろいろな素材を生かした指導経験について。

第11回のテーマ　子どものアイデアを大切にするとともに系統的な基本的技術の修得をどうしているか。

第10回のテーマ　豊かな適応表現をさせるための工作の指導はどうしたらよいか。

手もとにある記録をめくつて目につくことは第1に材料の不足に対する解決策、第2に用具の不足とその解決策。そのほかについては殆んど、技法についての細部や、創意のそだて方とセット教材等の問題につきいているように思われる。

材料不足については、戦後であればいざ知らず、も早や、そればかりはいつていられない。

用具の不足についても必要なものについては、何とか購入の道を熱意によつてひらかなければなるまい。

さて、材料があり、用具があつたとして、今年あたりは「発達段階に応じた指導……」そのものに何とか肉はくしていきたいものである。

従つて討議の柱として、次のようなことがいえないだろうか。

(1) 発達段階をどうおさえたらいいのだろう。

(2) その場合、素材はどんな形で扱われたらいいのだろう。

(3) 造形のつみ上げがどうおさえられればいいのだろう。

話の出ないうちに漠然と考えてみると、こんなことになるが、三つが、三つとも、分けかねる要素が余りに多すぎるうらみがある。話題を具体的にするために柱が明確を欠くような場合があつても、2本、3本と組み合つても、要するに、主題そのものに、肉はくする決意をもち合いたいと考えている。

提　言

（砂金記）

発達段階に応じて素材をどう生かし、どう指導したらよいか。

児童の絵画表現も、工作的表現でも、素材なしにその造形活動を考えることは出来ないし、自由な表現から、制約にもとづく表現への発達段階を無視しては教育効果を期待出来ないと思う。

造形は目的と材料と手段・方法によつて行はれる。創造性が重視・重尊されているのは目的を充たすための手段・方法が効果的であるかどうかの重要性をいつているのである。

低学年の自然発生的な遊びの中から材料の取扱いの手段・方法をたしかめさせ、中学年での制約がやゝ加えられた中で試行錯誤的に解決の方法を工夫していくことから高学年になつて目的に応じた解法方法を、計画的に試みるようにするのである。

そこで、造形活動に当つて、材料の経験に習熟させなければならないことになる。

材料には、形　状―（点線・面量）
　　性　質―（物理性・柔軟・剛直・一化学性・耐水・耐熱）
　　質　感―（冷温・粗雑）
　　可能性―（変形・変質）がある。

造形するにはこの使用する材料の特質を効果あるように利用、活用しなければならない。

低学年では、材料の経験を豊かにし、中学年では特性や可能性に関心をもたせ。

高学年では、選択し、確かめて取扱う工夫力を培うことに努めたい。

指導者としての案は

既成のイメージから脱した創造性の発揮される与へ方を充展的な系統性の上にもつべきことであると思う。

M E M O

第 8 分 科 会〔中描画〕

中学生としての表現活動における創造意欲を高めるためにどうしたらよいか話し合いましょう。

司会	富樫　貢平	（札幌市東栄中）
	中川　清	（札幌市一条中）
提言	柴田　義美	（後志双葉中）
	岩内　広次	（後志原歌中）
	荒木　堯	（後志大江村仁木中）
記録	田村　政彦	（後志余市町東中）
	久蔵　清弘	（　〃　〃）

8中　描　画

富樫　貢平　（札幌市東栄中）
中川　清　（札幌市立一条中）

テーマ「中学生としての表現活動における創造意慾を高めるためにどうしたらよいか話し合いましょう」

提言者の提言と共通テーマにその他私達が日常考えていること、話し合いたく思つていることを全道の皆さんとひざをまじえて話し合いましょう。

・提言について。
・共通テーマについて。
　◦ 創造意欲を高めるための用具材料について話し合いましょう。
　◦ 作品を通して問題を研究しよう。
　◦ 鑑賞評価について話し合いましょう。
　◦ 設備、施設面に就ての問題を話し合いましょう。
　◦ 教育課程について話し合いましょう。
　◦ その他、いろいろな問題を話し合いましょう。

新任教師として出来るだけ早く生徒の美術的能力を把握する様に低学年に比重を置きながら、個々の指導をなるべく避けて、クロッキー、素描、静物写生、風景写生と経て来ましたが、多少考えさせれらる点が有り、今回の研究会に於いて御指導いたゞきたく、下記問題点を提案させていたゞく事に成りました、まずクロッキー、素描の段階では、低学年はさて置いても、三年生になつても、形ち、動きを獲える事が出来ないでいる事、次に、二、三学年においては色彩、表現技法に関して理論上では多少理解していても実際の表現活動に入ると全くそれが使われていない事、低学年においては理論にも皆無に等しい状態です。又作品を完成する目的に於いても平気で塗り残しをしをして提出する生徒が多い事も上げられます。美術科の目標たる〝美術的表現意欲…云々〟を指導する立場の者としては僻地校の少数生徒を対象として事態を云々と結論を出すことは早計、軽卒であると考えられますが、以上載げた事を裏付けするに近い事を生徒自身表示して居ります。美術科が嫌いで授業が苦痛に近いくらいに思つている生徒が60％も居り好きな方であると云う生徒が10％で残り30％は授業内容によると云う事です。これは予想だにしなかつた事で明らかに美術科に関しても種々の条件に恵まれていない事と感じられます。しかも〝美術的表現意欲……云々〟以前の問題ではないかと考えられるふしもあり更に追求しますと、嫌いな理由として描けない、めんどうくさい、と半々くらいに挙げています。更に描けない理由としては洞察力に対して表現能力（技術）が伴なわず、途中でさじを投げるとのことで、色を使うと描なくなると云つている事でも知る事が出来ます。又、色を使うと描けないと云うのはめんどうくさいと明確に答える生徒にも連なり色を使うのが嫌であると云う答には考えさせられます中には美術科を軽視する態度が見られ、先入観として悪くともかまわないと云う様な考えを持つている様です。低学年ならいざしらず高学年に成つてもこの様な状態では情操教育云々と言われる美術科を指導するに当り当然考えなければならない事であり検討する必要のあることであると思い以下次の二点を問題点として提案したく思います。

a 小学校との縦の関連の断層を嫌が応でも認めなければならないと思いますが、この事をどの様に考えて、現実的（具体的）にはどの様対処して行くべきか。

a′ 技法、色彩に関して創作意欲を高めるためにも、ある程度の知識が必要であると思つて居りますが高学年に成つても皆無の状態に等しい生徒はどう指導すきか。

b 美術科軽視の先入観を破るために、生徒又はその他の周囲の影響にどう対処するか。

現在の段階

環境のせいか刺激に乏しく、写生、学科、写生と過して来た様でなるべく目新しい物、教材、表現技法等に気をつけて興味を引く様に進めて来て居りますがいまだこの様な指導すると言う結論は出て居りませんし、早急に結論の出る事では無いと考えて私の指導法の反省のためにも以上の点を提案して御指導お願いする次第です。

提　言

（柴田記）

描画指導を中心とした造形教育の諸問題と指導の方向

美術教育が当面している諸問題は近年益々複雑性を帯び、多くの評論家乃至この研究に携る人達はその混乱を指摘し、理論的指導による方向づけを示そうとして努力しておられる。私達現場の教師も毎日の実践活動を通してその混乱の意味するものを痛感し、試行錯誤の過程による美術教育の正しい方向とそのよりどころを求めています。私の場合も多少の経験と日々の実践の中から、子供の造形活動に現れるいくつかの疑問に対しその解決の方法を考えておりますが、こゝにその試案を示しまして諸先生方の御批判を迎ぎたいと思います。中学生の描画表現を中心にして、一般的に子供自体が持つ造形活動を決定づけるものに、外的条件と内的要素の両面を持つていると思いますが、外的条件としてあげられるものには　①家庭地域風土等による自然環境　②学校の設備や指導教師による影響等の

人為環境があり、内的要素としては　①心理的発達の度合（造形心理の面からの一般的把握）②個人的特質の度合（造形的個性による個人的把握）③その他身体的発達や知能学力等による影響が考えられる。このうち外的条件については随分研究論議が重ねられ、それぞれの地域性や教師論或は設備や素材の可能性等比較的明らかにされつゝあるようです。しかし、一方内的要素として、造形能力の心理的発達（造形心理学）の実践論証による学年発達段階の表現能力基準や、尺度の作成等、開拓されるべき分野が残されていると思われます。私が研究の対象として捉えて見たいのは　②の個人的特質の面についてであります。実際私達日々子供の作品を評価していて指導の方法（表現技法）や表現対象による差異が子供の創造意欲に重要なつながりを持つていることに気付く事と思います。この面で一般的基準としては、H.リード：V.ローウエンフエルドの分類が応用出来るのではないか、即ち視覚型と非視覚型による作品の傾向がそうであります。勿論その分類も細分化され適合性の是非を判断しなければならないが、而し問題は現実の子供達に如何にしてこの分類にあてはめ、そこからどのような指導基準を生みだすかと言う事であると思います。それこそ最初述べた試行錯誤の過程を通して試みるものでありますが、その一端として次の様な判断によつている、いくつかの意図的表現指導を行い、子供達個々の造形的個性を探り、現われた作品からその抵抗の度合を知り学力や知能等との関連に於ける診断カードを作り指導基準をたてたいと考えております。紙面の都合でその具体的内容は当日発表にゆずらせていたゞき、要は美術科の特に描画指導に於ける指導体系と言えば大げさになりますが、よりどころと進む方向を見出し、その位置と領域を確立し、美術を通しての人間教育実践の基盤を持ちたいと希つているわけであります。諸先生方の御指導御助言をいたゞければ幸と存じます。

M E M O

第 9 分 科 会〔中版画〕

中学校に於ける版画指導のねらいとその実践際について話し合いましよう。

司会	木村　晴一	（網走遠軽中）
	太田　達雄	（札幌市北辰中）
提言	諏訪　英雄	（室蘭市鶴ヶ崎中）
	高山　　康	（後志寿都町横澗小）
記録	吉田　信夫	（後志余市町西中）
	斎藤　宗夫	（後志余市町東中）

私は伝統と栄光に輝やくこの研究大会に今日の中学校の教育で造形教育がになう重大な任務を先生方と共に研究できることを幸わせに思います。版画に先立ち今少し絵画に於ける線の研究にふれてみたいと思います。純粋な形体を点とみる、この純粋とは単純な形体が無限の展開をなし得る可能性に満ちている状態で完成に向つて傾いている形で、傾くとは今の状態で決定されず、次の状態で決定される予期の形をいう。点は無限の展開可能を持つていると考え、これがすべての形体の基礎となるとの予期で形が成立する。点が多方向に展実現、形成された状態を塊、点が塊体となり終つた時に面が形成、面は塊の完全表現である。点の展開を線にするためには塊になるままに任せることでなく、多方向の展開を制限、一方向のみ展開を許すとき線になる展開方向の限定はすでに線にするということではじめから予想されていて線の展開は可能である。点から塊、面は塊の展開完了の表現で、この面は塊の展開と共に変形し、一定ではなく塊が展開を完了し一定の形を定立せしめた時、面も完了する。この面表現の先に線表現がある。塊を動かせば面が変る。面が変るから面の限界も変る、線は面の変更に伴つて変更する。線の変更は面変更、塊変更に連なり線は動くものである。ここに線は動勢成立の根本的条件となる。線は面を通して塊の表現をなすことができ、面を描くのは塊を描くのである。ここに線表現が豊かな表現力をもつことをしる。ここで生徒が創作する版画にふれて考えてみると、水彩画には消失して行くべき遠景があつたりする場合もあるが、彫刻される版画は近く視られて成立する明瞭な面で決定的な、いわば近景構成である。彫刻された面は決定的な面で形成、完成し、さらに特色として、製作素材の性質が彫刻された版画の中に残されている。彫刻の表面のもつ量感はその材質が内からの展開によつて動かされる抵抗でこれを明瞭にみることは彫刻の具体的成立の第一要件である。彫刻は外から抵抗面を作つて行くことで、重さによつて感ぜられる深さ、量感による精神の感銘である。重さ厚さは力になる。重さ厚さによつて与えられた線は単なる限界でなくて、その中に量感をふくむことによつて塊の表現たり得て、線は重さと速さと向きとを持つて塊の表現たり得る。重さは塊の量であり、速さは塊の展開方向であり、線は一層密度を大にして表現したものである。ここに塊と線との内的関係、その表現的関係を認め得るので、ここに堂々たる画線のよつてくるゆえんを理解し得られる。版画にあらわれてくる線は決定的常視的な線で、点より線を生ずるのは自然たる状態ではなくて、ある条件的、特殊なる場合で絶えず基礎たる面を実現せんとする仂動を持つている。確定された線に眼をそそぐと線が展開して来る消息を見ることができる。形体をその要求の形から見れば線で実現の形から見れば面である。線は面の願望であり実現であり、面は線の現実であり出発でもある。一切を貫くものより分出した線性質の変化線の向き、速さ、太さ、重さ、この線性質の変化は線の内的生命を展開せしめるものである。軽き線がその性質をかえて重く太くなれば、これは軽く明るい心持ちを変化させるものである。特色ある展開の卓越を見るということは、作者の自然を見る眼が一切の複合の中から見出せる純一なるものを示している。線は単に一限界を示すのみでなく、自已の生起の姿によつて面の位置と意図とを示し、空間を展開の姿で捉えることであり、面の展開を確定することで要求の確定である。形は線の向きで現わされ、線の太さは、厚さ、柔かさ、写実性の表現線の速さは、質の変更、速度をあらわし感動性の表現線の重さは表現者の態度を現わし、写実性とか感動性がきびしい内的決定性によつて成立、形体の意力的形体として構成する。絵画でも彫刻されてくる版画でも実在するものは面で、面は線により支持せられ完結せられる。版画が墨色で摺られるとき強い感動をさそうが、墨には色となる傾向が無いから、純粋に面となる要求に満ちている。墨は線に集中し得て、向き、速さ太さ、重さの性質そのものとして表現され、外界のある特定の具体的なる存在を思い浮べることなく、シンボリックに線そのものに去来性として集中することができる。このことは線は形体の表現の基礎でありうることの自覚である。

感ずることは、生徒の学習する版画は一方に絵画的他方に彫刻的でそこに線表現を学び見現することができる。このことは他の教材で見ることのできない独自な学習展開がとげられる。この線表現を介して、思春期に躍動し生命力に満ち満ちた中学生の心の内面の拡がり、豊かさ、深さを陶冶し表現に向け、具体的に作品にすることができる　。

人間の生きる生き方が、いつの時代でも、その今日が単に昨日の延長だつたり、踏襲だつたりしていた時代から断絶されよう、断絶されようとしている。その熱烈な欲求が今日ほど強烈に具体化されている時代はめずらしく、またかつてなかつたことかも知れない。かかる中で人々はいかに愛と平和と協力とを互いの進歩を願い、抑圧される者、苦悩する者のために、いかに配慮しているか、そういう姿を描くことによつて、人間相互にある親近性と同胞感との表現を中学生の独創力に満ちた版画でみるとき、それは生活版画ということになると思う。ここに中学生がその生活をどう表現するかということは〝美術による教育〟に課せられた重要な任務であり、美術教育にたずさわる教師としての栄光であろうと思います。

多くの先生方の御批判御助言をいただけますよう、お願い申し上げます。

提　言　（諏訪記）

版画教育が図工科や美術科で、はつきりした分野として取り上げられたので、他の領域とともにかなりのレベルに達しているようなムードをつくりつゝあると思う。しかし私や私の周辺、または私の知り得る限りの現場では、そのようなムードとかなりの開きがあるように思う。こうした傾向は単に版画に限らず描画やデザインに於ても同じだと思うが、版画に於ける両端の傾斜はそれ以上だと思う。場合によつては積極的にやつて居られる所とそうでない所の開きは傾斜の角度で表現されるよりむしろはつきり二つに分かれるのではないかと考えられる。

一方では版画は日本の独自な伝統として史上に大きな足跡を残し、現代においても創作版画として独自の芸術境地を拡大しつゝある。と言われ、また日本的伝統は民族性につながり、民族性から風俗につながり、更に生活につながり生活版画こそ版画教育の特質のようにも強調されることがある。

私は伝統を現代視野でうけとめることも、生活感情をうたい上げる版画教育も否定しない。ただそれのみに溺れ、それだけが版画教育だということに疑問をはさまざるを得ない。ある版画教育で有名な学校を訪ねてみたら指導者は作文の教師であつた。版画も表現である以上自分の考えが他人に伝えられるということも必要だと思う。ただ作文で言うすじ書きのようなもののみが表現されて事足れりとすることには賛成出来ない。かりによいと言われる作品が出来なくても美術教育としての立場に立つて造形的な深まりを育てたいものである。こうした版画教育の立場合の違いを云々することも必要だとも思うが、それにもまして版画教育実践の意欲を高めたいものと思う。

例年大会の分科会テーマに版画の領域がとりあげられ、いろいろな問題点が解明されている。しかし依然として版画教育にあまり積極的に進められていない。昨年問題点として出された版画の特質と教育的分析については問題点が高次すぎたためか、あまり活発な討議がなされなかつたこの点の解決が指導者に明確に把握されない限り、版画教育が盛んになれないと思う。昨年度と重複するが再度問題点として提起したい。

問題点

1. 版画教育のねらいと、版画の特質をはつきりさせよう。
2. 版画教育の障害になつているものは何か、どう解決されたらよいか。
3. その他。
   イ、伝統的なものをどう受けとめるべきか。
   ロ、複数刷は芸術かどうか。

M E M O

第10分科会〔中彫塑〕

中学校に於ける彫塑領域とその実践について話し合いましょう。

司会	三上　亨	（上川鷹栖一中）
	三谷　哲司	（学大札幌附属中）
提言	吉田　広仕	（札幌市陵北中）
	浜　静子	（後志赤井川中）
記録	岩田　昭夫	（後志余市町西中）
	桜井哲次郎	（後志余市町西中）

1. 彫塑教材のねらいはなんだろうか。
   イ、心象表現の場合。
   ロ、写生的表現の場合。
   ハ、学年によるちがいはあるだろうか。
2. 彫塑教材の範囲はどんなことだろうか。
   イ、けずる、もりあげる、とかの製作の方法上のちがい。
   ロ、いろいろな素材を考えて、表現の方法から考えてみてはどうか。
3. 技術指導をどう考えたらよいか。
   イ、創造的表現との関係。
   ロ、学年による指導。
   ハ、教材によるちがい（素材によるちがい）
4. やきものとか、石膏とりをどう考えるか。
5. 共同製作について。
6. 心象表現を豊かにするために、どうしたらよいか。

提　言　（吉田記）

彫刻の領域について新指導要領において、写生による表現と構想による表現に分けて指導の留意点としてその目標や、表現材料、表現題材、表現方法が述べられており、指導の内容が明らかにされた如き感をもつようであるが、現場においてその指導にあたつた場合何をどこまで深さや広がりをもつたらよいのか。ほとんど手さぐりの状態であると云えるのではないだろうか。確かに地域ごとの研究実践のつみかさねはあるとは云え全道的な大きな場での最低の指導内容について話しあい確認し合うことは今後の実践に大きな足がかりとなると考えられます。勿論生徒の発達段階を考え美術科の全領域をどのように系統づけた場合彫塑表現がどんな位置にあるかと云う点についても研究しなければならない問題とは思いますが、具体的に彫塑の領域ではどんな題材をどんな材料を使つて、どの程度の指導内容を学習させたらよいのか云うことについて話し合うほうがよりさしせまつた問題ではないかと思いますので、この点から提案したいと思います。

彫塑表現の絵画表現の本質的相違は、三次元的現実体がもつている量塊の軽重感、大小方向と物質の粗密感、硬軟、光沢性、不透明性など、それぞれの材料的特徴を通して三次元的実体表現であると云う事だと思う。そこで彫塑と云う事と云うよりは彫塑の本質それ自体だけを考えた場合その目標とか指導内容としては次の事程度が知識的なものや技法的なものとして限度にはならないだろうか。

別表　彫塑表現の学習目標とその内容

A 目標	B 学習事項	C 材料	D 表現方法		E 題材例
奥行きや高さや幅をもつた対象物（立体）から受ける感動を、じかに材料と結びつけることによつて、力のあるヴオリユーム多面性立体感を養う。 1　立体的な組み立ての観察量感の表現。 2　立体の組み立ての観察均衡に留意した表現。 3　立体の組み立ての観察動勢に留意した表現。	1 可塑材の性質 2 心棒の役目とその作り方 3 粘土のねり方と肉づけの工夫 4 粘土による表現の可能性 5 塑造用具の取り扱い方 6 石こう取りの方法 7 石こうじかづけの方法 8 セメント彫塑の方法 9 焼成について（テラコッタ） 10 その他可塑材料による表現方法 11 固体材による表現の可能性 12 彫塑用具の取り扱い方 13 木材の彫り方（木どり荒削り小づくり仕上） 14 硬土、石材の彫り方（荒削り、小づくり、仕上） 15 その他固体材による表現技法（石けん、石こう） 16 浮き彫りの特徴 17 丸彫りの特徴 18 組み立てによる彫塑表現 19 ※共同製作の表現	1 紙粘土 2 ピカソクレー 3 天然粘土 4 ブロンズ粘土 5 油土 6 ゴム粘土 7 石こう 8 セメント 9 その他人工材料 10 木（かつら、ほう、白かば） 11 硅そうブロック 12 石けん 13 石こうブロック 14 石こう板 15 軟石（白鳥石軽石） 16 金属 17 その他人工材料	㋑ 型どり ㋺ ひねり ㋩ 焼成	① 浮き彫り ② 丸彫り ③ 組み立て（接着）	・自分の顔のマスク ・頭部全体の象 ・自分の全身像 ・私とペット ・母と子 ・友人の像 ・自然の植物、動物の形 ・近所の人と挨拶しているところ ・フツトボール選手 ・あるリズムを踊る舞踊家 ・野外彫刻 ・踊りを連想させる抽象的

第11分科会〔中デザイン立体表現〕

中学校に於けるデザイン教育の問題点について話し合いましょう。

司会　泉　秀雄（旭川市神威中）
　　土岐　禎次（札幌市中島中）
提言　尾川　和彦（後志蘭越中）
　　横内　勝彦（後志蘭越町目名中）
記録　横村　清司（後志余市町豊浜中）
　　斎藤　栄三（　〃　　〃）

デザインに関する問題は今日の造形教育界でも、産業界でも、種々の重要な問題点をふくんでいる。しかし〝デザイン〟とは何かという点については我々の間でも又専門家の間でも、なかなか一致した意見が出ない。昨年名寄大会のデザインの分科会に於てもこの問題で半分以上の時間を費してしまつた。そして〝色と形の基礎練習〟はデザイン教育の一分野であるという一応の結論を出して終つた。こんな中で現在デザイン教育は造形教育の中核をなして旺盛な意欲を示しながら発展している。

そこで今回の分科分では本日の特設公開授業と下記の点について皆様方とお話合いの上その問題点について研究しあつて行きたいと思つています。

1. 現在デザインなる語は一般化しているが、デザインとは一体どんなものなのだろう。
2. 造形教育の中での、デザイン教育の位置について。
3. 理想的なデザイン教育とはどの様なものなのだろうか。
4. 以上の話し合いからデザイン教育の問題点が出て来るのではないでしょうか。

提　言　（尾川記）

立体的な構想力を高めるデザイン指導

はじめに

絵や彫塑以外の領域の中で、造形的要素、つまり点線、面、立体、色彩、さらにはそれらの構成から生ずるバランス、リズム、テクスチュア等々を巾広く学習し、子どもの造形感覚を育てていこうとするデザイン教育が叫ばれている。勿論この事について疑義をさしはさむ余地はないし、子どもが大人へと成長する過程ので、絵や彫塑以外の多くの造形に直面し、生活していく事を考えれば、このような巾広い造形学習は当然の事と思われる。たゞデザイン教育の特殊な立場、つまり絵や彫塑のように、ものからうけた感動を自由に表現するものではなく（勿論美しさ自体も一つの条件であろうが）生活の中での実用性、適応性という事を十分考慮にいれなければならない。つまり、個々の生活を基盤として、ある条件の中で、造形そのものに関する能力（造形言語）を高め、それを定着化し発展化させていく課題をもつているのである。こういつた造形指導は、それなりに教師の綿密な計画をより必要とするものである。本校のように純農村にある子どもたちは、特に造形覚は稀薄なまゝでおりやすい。したがつて、子どもたちの造形意欲を目覚めさせ、素朴なまゝに、そして豊かに高めつゝ、彼らの生活をもつと新しい、もつと鋭い目で見つめる事ができるような手だてを、たえず教師がはからなければならないと考えている。

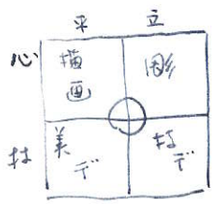
要　旨

本校の生徒は、特に空間を的確に把握し、処理して能力に欠けていると思われる。そこで次のような方法をとりあげてみた。

1. 直線を自由に結合させたり、配列させたりして曲線や曲面を求めさせ、そのメカニツクな美しさにきずかせ、空間性や立体感を強調させる。
2. そこから、線材を使用し、複雑な曲面を単純なものに解きほぐしつつ立体的に構成する。
3. その過程で、独特な形の中に具象的な意味を持たせつつ「目的構成」に発展させ、子どもたちの目を身のまわりに向けさせる。

以上、子どもを眺めての、私なりの指導であるが、それなりの効果が認められたように思う。たゞ、本当に子どもの興味、欲求、造形能力などに立脚した指導であるかどうか、また、それが子どもの生活に定着していくものかどうか、極めて疑問である。御批判いたゞけば幸いである。

M　E　M　O



展覧会のイギ

第12分科会〔高デザイン〕

デザインの具体的な進め方について話し合いましょう。

司会　中村　矢一（札幌市月寒高）
　　寺井　　孜（札幌市北高）
提言　中村　矢一（札幌市月寒高）
　　寺井　　孜（札幌市北高）
記録　児玉喜八郎（後志余市町高）

第11回　流川大会

①高校の場合専門的に教師自身が特技が異なるため、教師間の交換が必要である。それで今回は共通的なものとして、各校の年度計画がどの様になつているか話し合う。残されたものとして教具はどの様になつているか。

第12回　名寄大会

①彫刻の教材はどうであるか、これについては実施している学校があり、地方に於ては教材購入に工夫をしているとの事であつた。又、年間計画に於ける実施につき教材費が問題となり、それの解決方法も教師自身自覚による指導によつて予算が得られるとの発表があり、改めて教師自身の反省がなされる。美術教師は芸術家でなく美術教育者である、その立場で積極的に学校教育の責を負うのであるとの意見が出る、小・中学校との連系も必要である、それの認識とデザイン教育の実例を持ち寄り話し合う事で散会。

第13回　余市大会

備　考

記録の10回大会は不明につき省略させて戴きます。11回は伊藤（札東高）先生の提言による。12回は中村（札月寒高）の提言による。高校の分科会は日が浅いが年々出席者も増し、活動的になつたのは喜ばしいことです。　（中村記）

提　言　（中村記）

美術科の場合のデザインとして

① 学年別による基礎練習の積あげによる成果を考える。作つた形、みなれた形に別けて作品指導をしてみた。色彩組合せの分解構成、デフォルメの構成と云つたもの主体にして作品（当日持参）からこれらがどの様に創作をなされるのが望ましいかを話し合いたい。創作の場合概して良い結果が得られないので規定問題と自由問題との組合せて製作をこゝろみた。

② 用具材料については特に備品としてないが生徒には用具だけは良いものを持たせる（スケールの大きいもの）作品少さくこじんまりしないためにもその方が効果が出る、図板は各自製作させて作品提出に指導する。

③ 毎年の資料は10点位残してスライドと平行して鑑賞したり対外的展示会に出品したり、見学したりして動くものとして認識させて効果が挙る様に進めている、評価の場合は概して教師一人よがりにないがもで、この辺の問題は研究の余地がある。

以上の事はデザインのみであるが、高校の場合一人で美術全体の領域を持つているのでテーマから少しはなれるが、絵画彫刻について提言してみたい。

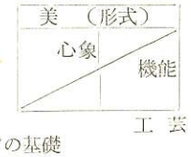
①絵画の表現材料がどのあつかわれているか、これらは経済問題とも結びつくが水性油性がどの様な時間配当になつているだろうか、絵画の基礎として石膏像は満足に設備されているだろうか、それらに関係する備品は、

②彫刻が学習内容の中核になつているが、それらは実完どう解決しなければならないか、教師自身が平面表現には自信があつても立体になると問題がありそう、それを如何に教師自身が解決するか、これから幾多問題が出て来そうである。

提　言　（寺井記）

デザインの具体的進め方について話し合うという事の前に高校における美術と工芸のデザイン考へ方あるいわば見方というものが混同されている面がないか、それがデザインの進め方に何らかの障害になつてはいないかという事で、次の問題点を上げてみた。

a. デザインの独立性
絵画彫刻のような純すい美術から離れてデザインが独立しているものと考え独立した応用活用として純すい的なものの他に大衆的なものになつてきている。
この事はデザインを進めていく上に生徒に対して美術工芸のデザインに対するというか、あるは美術工芸の分野ともいうべきものを明瞭につかませることが必要ではないか。下図の表は美術工芸の分野をあらはしてみた。



b. デザインの基礎
基礎のデザイン
インダストリアルデザイン
上記にあげたことはデザインの考へ方として三つの考へ方があるのではないか？

基礎〈 創造基礎（デザインの本質）基礎のデザイン…考へ方組合せていくもの。
　　 要素的基礎（実体）デザインの基礎〈一般基礎 / 専門基礎

インダストリアルデザイン……機能構造材質を通して視覚的に決定していくものである。

上記の二点を上げてみたがデザインを進めていく上にあたつて特に工芸においては、調査→アイデア→表示→製作の一かん性をもつている面が強いのでデザインの考へ方を明瞭に、ある事が具体的な進め方の一方法になるのではないかもしらん。美術工芸の分野には相互関係は強いものがある。決局広範囲にみつめていくことが必要であるということになるのではないか。

第13分科会〔単　複〕

単複校に於ける造形活動を活発にするにはどうしたらよいか話し合いましょう。

司会	小山田　武	（釧路柏木小）
	橋本　富	（札幌市琴似小）
提言	初山　武	（後志比羅夫小）
	坂口美津男	（後志島牧村原歌小）
記録	本間栄次郎	（後志余市町登小）
	大月　良夫	（後志余市町豊丘小）

全国的にすばらしい造形教育の実績をあげている学校は必ずしも大きな学校でない。僻地の小さい学校では、生活経験はせまいかも知れないが、それだけに深く生活を見つめ、教師と子どもが一体となつた、ほんとうの造形教育が進められる可能性をもつている。

その反面、1、刺激がない。2、学年混合である。3、用具・材料が不足である。等多級学校と異なつた困難点もあり、当然、ちがつた指導法が工夫されなければならないと思う。このようなことについて、下記の五点を柱として、それぞれの実践を発表し、より活発な、明日の造形活動ができるよう、具体的な話し合いをしたいと思う。

1. 単複校における造形活動の実態はどうか。
2. 造形教育を、子どもの生活の中に、どうもちこんだらよいか。
3. 単複校のカリキュラムと、系統的指導法。
4. ひろい領域をどう整理して取扱つたらよいか。
5. 身近にある材料のとりあげ方。

尚、この分科会は、本大会で、しばらくもたれなかつたので、特に、お集まりの方は、指導された作品などを提示して、活発に討議してほしい。

提　　言　　（初山記）

へき地での図工科

1. 教室の中の教師……現場の指導を返り見る時、山の様に残された問題、考える間もなく雑用に追れ疲れきつた頭でおもい付の授業をする、こんな現実から今日は気持の良い授業が出来たという日は真に少ないのである。しかし子ども達は真の教えと信じ自分に受け入れるのにけんめいである。子供達を良くしてやろうと真剣に考えると脳は深く大きなあせりと劣等感におそわれ、そこには当然教師の指導と子供の学習に対する要求にずれができ上からの押つけになりやすく、ひとりひとりの子どもが積極的に参加しないのではないだろうか。

2. 教室の中の子ども……数少ない事象が単調にくり返され変化に乏しい場面が連続するということはものの見る角度が固定することで、ものを一面しかつかむことが出来ない。これが大きな問題と考える。
(イ)自動車の絵を書きなさいとの課題想画で題材としてとり上げるのはバスとトラックだけであつて、そえ絵も木材・魚の積込み作業と殺風景な山道が目に付き、一方都市の子どは多種多類の自動車と舗装された市街と多種多様で経験の量や質の一端をうかがえる。(ロ)牛馬の顔を書きなさいとやはり想画を書かせる、へき地の子どもの特色は牛馬の顔を形ち作る大切な部分を書き落したりつけ加えたりするのが多い。同じ屋根の下で同居していて細部まで知つていると考えられるのに予想はうらぎられているわけである。その原因には色々あろうが事物に対して直接的、感覚的に接触するだけで分析的総合的に観察することをしない為と考えられる。
(ハ)茶ずつを見せこれとにたものを数多くあげるとの課題では文化環境の貧困ということでは済されないぐらい数少ない、それは参考例を抽象できない為と考えられる。あるものをちがつたものに発展させる為には共通な概念を適用させさらに具体的な個々の経験を相互に関係づけて比較し抽象化し一般化されなければならない、それが出来ぬ故に発展できぬのではないだろうか。

3. 父母の願い……親が子供に期待するのは命じたことによく服従する人間である。すなわちいそがしいという言葉をむちにその子供をいそがしさにおいこむこの負荷にたえる子どもで労仂第一主義である。又教科に対する認識不足から主要教科と副教科の考えがきびしく図工科の必要性を認めずすなわち読み書き、そろばんができればというのが、願いで、これらみな狭い社会、貧困な社会がそうさせると考えられる。

4. 研究体制……研究は一人二人の力で完成されるものではない、時間的にも先人の残された研究物の上にさらに積みかさね、空間的にも多くの教師の協力による共同体制が必要なのではないだろうか。端から端まで四十数キロの支部にわずか6名のサークル員、なんらの経費もなく、まして交通の便が悪く集まることすら容易ではない、結局一人一人の個人プレーに終つてしまつているのである。

5. 三年間の流れ……子供の欲求する授業を目標にまず教師自身が図工科に親しもうと多くの犠牲を払い土曜日の午後集会を持ち絵をかきものを作り語り合う、こんな集いを子どもが知り積極的に参加するものが出てきた。
又、一面では家庭訪問をし図工科の必要性、のびる様すをＰＲし、冬になつて中止する頃には二十数名にものぼつた。二年目には身近かな素材をいかに生して利用すかを海に山に楽しみながらの研究に子供等は積極的に協力し学ぶところが多かつた。三年目にはさらに子ども同士の関係、子供の発言、教師の助言が表現活動にどの様にえいきようをおよぼすか解決する為に実践記録を始め分析し合つた。

6. あとがき……へき地の子供も個々の個性のある努力によつて自分を伸ばばそうと一生けんめいで立派な素質も持つている。我々に多くの問題の一角でもくずして少しでも良い子どもの協力者となりたいものである。

第14分科会〔特　殊〕

特殊教育に於ける造形活動の位置づけはどうあるべきか話し合いましょう。

司会	石崎　義政	（室蘭市教育委）
	斉木　果一	（札幌市啓明中）
提言	伊藤　潤楽	（後志余市町沢町小）
	桂島　丈男	（後志京極小）
記録	佐藤　浩	（後志余市町西中）
	川村　明	（後志余市町沢町小）

造形教育連盟の研究大会で、特殊教育について分科会としてとりあげたのは本大会がはじめである。

とりあげられた理由を私なりに考えてみると、文化の進歩社会の発展と共に複雑な社会世相、社会組織のなかにますますひらいてゆく大きな断層など数限りない、原因が積みかさなつて、不幸にも社会人としての適応性に欠ける児童・生徒の激増しているこの頃の現状から、今日的課題として、特殊教育の重要さ、その中で造形教育がしめる位置づけを、このような現状の段階で、たしかめ、より高次なものへの発展のためにこの会がもたれたのではなかろうか。

造形教育が、いかに「力強く生きる力」をつくりだす学習であるか、これは今迄の大会の中で討議され深められて来ていることあり、論ずるまでもないことではなかろうか。

生きる力に欠けている彼等に、造形教育が育てることのできるものこそ、強く生きぬく力を育てるものであり、生きるよろこびを育てる教育であり、造形教育こそが、他に求めることのできない効果的な、学習ではないであろうか。したがつて、その位置は高く、大きく、中心軸となるのではなかろうか。

無感動な彼等に、身体をとおして、感覚に訴え、実際的、行動のなかから根気よく彼等の反射に訴え、やがて示すであろうさゝやかな反応を期待して、感覚そして、感動をよびさまし、やがてつくり出す力をも育てることが出来ることを信じて、この討議をより有意義なものまですゝめるために、皆さんのご協力を、お願いいたします。

A　造形教育は、どんなはたらきをしているであろうか。
B　彼等は造形教育に、どのような反応を示であろうか。
C　造形教育は、どんな方法で指導されているであろうか。
D　造形教育は、どんな材料が用いられているであろうか。
E　これらの学習は彼等にどんな効果（心理的、生理的に）を与えたであろうか。
F　より効果的な学習にはどんなものがあるであろうか。

M　E　M　O

◈部　会　8月1日　8.30～10.00

B　小　学　校

発達段階をふまえた指導内容とその系統性について話し合いましょう。

司会	樋口忠次郎	（小樽市長橋小）
	中山　啓	（小樽市天神小）
提言	金井　秀男	（札幌市東小）
記録	下山　信美	（余市町大川小）
	田口　香苗	（後志留寿都村旭野小）

本大会の歩みの中に本主題は着々その土台を固め、12回名寄大会小学校部会においては〝指導内容の系統性と発達段階をいかにとらえたらよいか〟というテーマに盛り上り、連盟カリキュラム試案の検討を通しながら、図工科の指導領域の検討とねらい、指導内容の具体的吟味、そして発達段階の系統性のすじみちへ、と研究が進められて参りました。

本部会の主題を話し合うにあたつて、提言者の提言内容を基にして、昨年までの土台の上に、一ケ年間の現場実践の積み重ねられた成果を加えながら話し合われることを希望します。

柱となる問題点をつぎのように提起します。

イ、発達段階をどのようにふまえたかについて話し合いましょう。

ロ、発達段階と系統性の関連をいかに把握するかを話し合いましょう。

ハ、造形学習の領域から指導内容の検討をいたしましょう。

提　言

小学校教育の中での図工教育は造形活動という手段を通して子どもたちが、よりよい成長をとげることに役立てようとするものです。即ち、図工教育が人間形成の中で果す役割は、他のいかなる教育活動によつても代えることのできない分野があることについては周知のとおりのことだといえます。

従つて、図工教育がうけもつ分野について、具体的に明らかにし、図工科でなければできないという教育上の特質を、はつきりさせることが、とりもなさず、指導内容を本物にし、肉体化できるものであると考えます。

さて、理念として確信をもつだけでなく、日々の実践を通して更に確信を強めねばなりません。子どもの心の中味を知ることは、日々の実践の素朴な反省の中でこそ、生れてくるものです。ひとりひとりが、ひとりひとりの子どもへ、多くの視点にたつて、子どもをみつめていくことです。子どもの動的な行動を子どもの作品の中から読みとり確信のある、心のひだをよみとることである。

この指導内容の肉体化と子どもの心を読みとることがらをかみあわせることが私たちの本当の仕事です。

そのために

(1) 〝ツギタシ〟的学習をさけること。
（ひとつの仕事の定着を考えるために）

(2) 指導上の主張を、しつかりと、自分の解釈の解談の上で本物にすべきだ。
（ひとりひとりが、造形哲学をもつべきだ）

(3) 系統性とは、つまるところ造形指導内容の選択と質的指向性である。
（勇気のある仕事が、いま必要ということだ）

この三つの基点の上でこそ、始めて広く現実の生活の中に表現のための素材や手段があることを秩序立てて指導し、子どもの発想を豊かにし、自発的で、積極的な表現態度を伸ばし、可能性にみちた表現力を、ひき出すことが、造形学習の指導における〝中心課題〟です。

この課題の解決は、決して安易なものでなく、ひとりひとりが、汗を流して解決されるべきであり、くるしみあう現場の実践の中で、問題を究明されるべきであると考えます。与えられるべきでなく、獲得することだということを、みんなが、しつかりと腹の中にやきつけることだと考えます。

M　E　M　O

C　中　学　校

教育の全体構造の中で美術科の現状や、あるべき姿について話し合いましょう。

司会	土門　孝	（札幌市一条中）
	但野　栄一	（岩見沢東光中）
提言	中川　清	（札幌市一条中）
記録	村上　豊	（余市町旭中）
	奥野　洋	（後志共和村前田小）

中学部会の過去概観

過去12回の本大会のこの部会の流れを、大づかみに前中後としてながめると、前期では教科性をどう捉えるべきかが中軸になつており、中期では文部省課程改訂に対して、現場からのはね返し姿勢でカリキュラム検討がとりあげられ、後期では文部省の時間削減に対する必死の抵抗問題として、現場の総力結集で222防衛活動が展開して来た。

形の上ではこの教科の問題点は一通り掘り起されたとも言えるかも知れませんが、大会担当者の苦心に関わらず、もり上つた論議は時間切れですつきした整理にもちこめない憾みがあつた。でも意慾結集や意識統一はこの尻きれとんぼ論議（失礼）の中でかなりの高い成果を収めて来たと私は思つています。

以上の概観から宿題として残つている大きなものは二つ。一つは、全道カリキュラムを自主編成でくむ仕事。もう一つは222運動をどう定着させて行くかでしよう。

この自主編成カリキュラム問題では、文部省カリキュラムの問題点えぐり出しはこれまでかなり行われて来た訳ですから、これを焦点づける面、これまでの現場実践を通しての批制集約、更には農漁村、都市、単複等々の地域性をどうとりあげて行くかの面等から、弾力的な、平凡な教師の使いこなせる、自主カリキュラムが要求されています。このための実態調査集計分析には今一層の拍車がかゝるよう祈るものであり、この組織づくりももうはつきり進める段階に来ているのではないでしようか。

222運動は、本道情勢が全国動向の中で最強力な支柱になつていることはいよいよはつきりして来ているのですが、一連の文教行政攻勢は依然として改宗していないどころか、美術科教員定員枠から「道徳攻勢」からとしつこくなつてきています。私達は腰を据えて222運動を定着させて行く方途を考究すべき段階に向つたわけです。

教育の全体構造の中でこそこれらの宿題は歪みない解決のいとぐちがつかめるものでしよう。

提　言

・現代の教育に於いて、美術科に課せられた諸問題の中から、深く吟味し、検討されねばならないと考えられる問題点を三つ取り上げた。

① 教育の全体構造の中で美術科がどう受けとめられているか。

今日の美術教育が人間形成に重要な役割をもつものであるということや、美術教育がねらいとする造形活動を通して養われる創造的能力が、たんなる造形美術の基礎能力としてだけでなく、科学的な基礎能力として、又広く生活を豊かに改善する基盤となるものであるという考え方は概念的には一般化している。

しかし、教育活動を実質的にとらえたときに、美術教科に対する認識はきわめて低い。生徒は属にいう主要教科外のものとして考え、他教科の先生方は美術科の重要性を認めながらも、セクト的に流れ、又多くの父兄はいわゆる進学ということを中心に考えて美術教育に対する関心は薄いのではないだろうか。

以上のような社会的教育条件をどう排除し、克服するかに問題がある。

② 発達段階をふまえた系統的（タテ軸・ヨコ軸）な教科課程の問題点

改訂教育課程（改訂学習指導要領）は実施期間2年目をむかえ、各地区、各学校では具体的実践を通して又理論的にも改訂の基本的内容について検討を行ない自主編成運動を強化してきた。しかし実質的に授業におろして見たときに、それは万全なもの、妥当なものと言い難い、各学校、各地区、全道という一つの広がりの中に、造形教育を推進するための一要素として全道的な自主編成をふまえた基底的な教科課程の編成が望まれる。

札幌市・教・研では昭和33年～36年の4年間、継続研究の結果まとめにカリキュラムの再検討を始めた。各領域について一つ一つの広がり、深まり……から系統性をもつて本質的な共通の問題点を引き出し、あらゆる角度から分析し、「何をどう教えるか」「生徒は何をどう学ぶか」徹底的にしかも実践的に明かにし、学習内容のミニマルなものをとらえようと実践研究を始めている。

③ 時間数（2・2・2）の問題をどう解決してゆくか。

造形活動の本質をゆがめるものとして時間数の問題が早急に解決されなければならない問題点としてあげられることは昭和36年～38年の2回のアンケートの結果から……。

1. 美術科を担当する専任教師が少ない。
2. 施設設備が非常に貧弱である。
3. 高校入試、学力調査の教科に重点がおかれている。
4. 美術の重要性の認識がきわめて低い。
5. 其の他。

「美術教育はこれでよいのか」という我々美術科を担当する教師の一人一人の深い自覚に立つて、教育の本質に立ちもどらねばならない。要するに現場からの生の実践が最低2・2・2でなければ授業がなりたゝない。実証実践のつみあげが、教育委員会、文部省につきあげられて2・2・2に改訂せざるを得ないようにもつてゆかねばならない。

D 高　　校

美術・工芸のⅠ・Ⅱの教科内容を系統的に進めるにはどう考えたらよいか話し合いましょう。

司会	中村　矢一	（札幌市月寒高）
	寺井　　孜	（札幌市北高）
提言	中村　矢一	（札幌市月寒高）
記録	児玉喜八郎	（余　市　高）
	島田　迪彦	（余市町東中）

11回　滝川大会

①この時高校に於ける教科課程の改訂草案が計画されていたので問題は芸術科の履修をどう位置付けするか、それらを話しあい望ましい案をつくり連盟を通して道教委に要望する。又望ましい案を各校に持ち帰り現場で芸術科を希望している生徒が選択出来る様にカリキュラム委員会で発言する事を約束す。

12回　名寄大会

①新教科課程がそれぞれの学校で、どの様に立案されたか資料を持ちよる、万点とまでいかないが11回大会の効果が現れていた。地方と都市との学校により芸術科の扱い方が異なる。

②指導主事配置の問題として美術科だけでなく、芸術科として道教委に主事が居ない事が芸術科の位置づけ芸術科教師の連絡などに困難点があるのでないかとの話しになり連盟として道教委に要望することを決める。

（37.12.中旬連盟として道教委に要望書提出す、結果は努力するとの事であつた）

③高校美術課程設置の問題、これは全国的にみて北海道にも必要でないか、これが北海道芸術文化向上の為にも一役を担うものであるので、実現したい提案があり具体的なものは今後の研究課題とする。

（連盟として要望書を提出した折、指導主事の耳に入れて置いた、又これと同じく音楽課程の設置は相当具体的なものに発展している事を書き留めて置く）

13回　余市大会

備　考

記録の10回大会以前は不明なので省略、11回は伊藤（札東高）先生提言。12回中村（札月寒高）提言。内容的にみて個々に解決出来得ないものがあり、1日も早く参加者が多くなり今迄以上の効果を挙げたいものである。　（中村記）

提　　言

①内容としては絵画、彫刻、デザイン鑑賞に大別されるが生徒の選択、各学校の実情によつて形態は異なるものと思う。現在1年生のみが実施しているので一応のめやすの様なものが得られれば良いと思う。

2 単位修得、6 単位修得に区別して、

テーマからはずれるが名寄大会での引継ぎ経続問題として

①高校美術課程の問題……現時点に於ける音楽課程の経過を報告してこれからどの様に問題を研究して進めるか、又それに関連して各校が互に連絡して問題点を出し合う場を確認し資質の向上も考えて、多く教師に呼びかける。

②指導主事配置について道教委交渉の報告。

③生徒作品発表について、道内に於ける公務形式の展覧会を紹介し、生徒自身の意慾をもりたてる。

M E M O

E 綜　　合

子どもが生活をみつめ、造形的に高まつていくためには吾々はどのようにしたらよいか、その系統性について話し合いましょう。

司会	太田　達雄	（札幌市北辰中）
	種市誠次郎	（札幌市大通小）
提言	高橋　栄吉	（札幌市北九条小）
	吉田　徳夫	（宗谷浜屯別中）
記録	川崎　弘治	（余市町西中）

造形教育の価値と子供のたかまり（発達）を、教師や父母が共通の理解をするために、これ迄種々の研究が重ねられて来たが、特に滝川大会（昭和36年）には造形学習の教科性の問題がとり上げられて、その芸術性について論議され、一応の確認がなされたが、日頃の実践との関連や掘り下げについては、なお研究の余地が残されていた。

そこで昭和37年度から「子供が生活をみつめて、造形的にたかまつていくために、吾々はどのようにしたらよいか」という主題のもとに研究が進められた。つまり要約してみると、『子供が生活をみつめること』とは、子供をとりまく社会条件の中から、素材というものをどのようにとらえるかということにもなり、又『造形的にたかまつて行くために』とは、子供の内面的生活、つまり認識がどこまで強く自已表現としてあらわれ、能動的自主的な行動をとるようになり、具体的には造形感覚や技術、理解、表現がたかまつて行くために『吾々はどのようにしたらよいか』つまり指導者としての立場から、教材の内容関連、位置、領域、施設、環境、指導法、評価等の全分野で解決を試みようとするものである。

そこで基本的な問題として話し合われはこととして1、創造性の問題。2、認識の問題。3、自已主張の問題等が上げられ、又具体的研究を通して話し合われ、更に残された問題は、

1、造形の基礎能力と発達段階による学習内容の系統づけ。2、評価について。

であり、討議の柱として次の点から考えていきたい。

1、主題のもつ意味（特に系統性）から。2、具体的提案。3、今後の研究の方向。

提　　言

1. 造形教育にかける系統性の現代的課題

(イ) 芸術教科の系統性の性格—他教科とのちがい。

他教科とのちがいとして科学的、文学的、論理的発展性とは異なる。

芸術認識は、推理、思考、技術、経験の積み重ねに立つ発展性ではない、生活に即応した人間の生々しい生活実感の上に立つ内的外的の感覚造形、思考、知性、技術を通して、生活事象と対情するものである。

即ち生活の具体的現実に直面した個人の人間が起す、感動や、生活意慾、矛盾性への改造がその源動力となつて、個人の独自な造形活動が、独創的様態をもつて生まれ、生活化され発展してゆく性格を帯びている、教育はその造形活動の素力を培う教育構造を持つ価値を持つものであり、その指導の観点も造形教育の本質的性格をとらえてなされるできものである。

(ロ) 系統性と現代社会構造の背景—生活の基盤に立つものの領域。

第三次産業革命は原子力と大量生産的人間疎外の様相の中に、生活するこどもたちは、そこに人間生活の矛盾性を常に体験するのである。自已主張はますます弱められ没個性的人間機械化物質化の傾向をすらたどる皮肉を現代文化の圧迫は、人間が生み出したものである。人間の本来性は再び素朴な幸を希求するのである。教材の基盤となる造形活動の領域設定は生活と人間の本来性のギヤツプをなくし、より楽しい生活のために造形文化を創造してゆける素地即ち創造的態度形成の学習経験であらねばならない。

(ハ) 系統性を確立するための共同研究対策基礎能力の発達段階調査と、生活感情造形文化生活矛盾の解明。

基礎的造形能力の実態調査を、発達段階別に、地域的に協力体制をもつて共同研究しその資料の交換を広範囲にある児童生徒の現在の生活に対して何を求めて、何を感じているのかを調べる必要がある。社会の進展に伴う造形文化に適応し之を改造し創造していく造形能力の素力はその分析的実態調査によらねばならない。

(ニ) 系統性は学習過程の認識分析と、指導助言の適正から生れた資料—授業研究。

個人の生活条件、気質、体質、生育歴がその基盤となるが、そこに共通した、客観性のある真実をつかまえなければならない。そして教えるべき知識、技能と造形的思考の燃焼による非指示的助言によつて、生れ出てくる先人の人間的創造活動の過程をたどらせる学習体験が必要なのである 。それが、生活の現実に対処して、美的情操を高め、創造意慾と活動の素地を形成する指導になるのである。教える思考する試行する、発見するよう、自然、人工、感動、興味、おどろき、好奇等、指導のはじめを明確にすることによつて、教材指導とその発展性を組立てることが可能なのである。こどもの認識の実態を常に授業研究の中から積み重ねていくことが重要だと思う。結果の活用による行き止まり的学習でなく、見つけ出す考えだしてゆく学習経験がやがて、生活力へなつていくのである。

2. 討　議　問　題

1、みつめる学習の指導の場とその具例的対策はどうしたらよいか。

2、造形的高まりと教材構造及領域設定の条件はどんなことか。

3、造形認識の具体的発達段階はどのような対策で把握されるか。

4、教材の発展系列と個人差、客観性を、いかにとらへるか。

5、幼少中学の系統指導の可能性と阻害点を指適してみよう。

作品の見方 10.00～12.00

司会　和田芳郎（札幌市琴似小学校）
　　遠藤未満（苫小牧市東小学校）

今ここに、子どもの作品が示されています。
判つているのは学年だけのようです。
これらの作品について教師の指導が、どうであつたか、この子の性格はどんなのか、作品をしあげる過程がどうであつたのか等々のことは全部かくされています。
とにかく、今私どもは
「自分のなかの造形的な教養の全部を、ひつさげて見る」より他ありません。然し一作品に対する見方はさまざまです。同じ見方があり若干の相違が出たり。或いは全く違つたりするときもあります。
これは、先に述べた隠されていることが或る程度判つたとしても出てくる問題のようです。
いわゆる主観的な相違というものです。
特に創造的な作品ほどこの相違がひどく、或いは全く逆な見方さえあります。
この相違のもとは、そのひとひとの「造形的教養の差」といつても余りに漠然としています。
これを見るひとの創造能力の深浅とか、これに共鳴する度合にかかつていると言つたら言いすぎでしようか。
ともあれ、この相違について話しあつて子どもに対し、責任ある見方、えらび方がなされるようにしたいものです。

M E M O

◆講　演　13.00～15.00

演　題　〝子どもの生活と造形教育の体系化〟

講　師　白梅短期大学教授　井手則夫先生
東京美術学校卒。
彫刻家・美術教育家。
現在前衛美術委員・新しい絵の会。
東京農大造形学講師。

M E M O

◆綜合部会報告　15.00～15.30

M E M O

1 (32)	2 (32)	3 (30)
学校生活と関連して	校外生活から	動きのあるもの
○視覚的効果		
マーク・矢印	ポスター	標識
文字　表紙	カレンダー	アーチ
		ディスプレー
○装飾的効果		
花ビン　飾り鏡	壁面	舞台
ペンダント	染め物	アルバム
ブローチ	織物	
○機能的効果		
交通機関ドリーム的	パッケージ	建築
	家具	都市計画
	日用品	

祝

第13回 全道造形教育研究大会

余市町

町長　坂本角太郎
助役　谷　正弘
収入役　横田　栄

余市町議会

議長　金子源蔵
副議長　安在平次郎

余市町教育委員会

委員長　糠塚清蔵
委員　西村重治
品田武司
水川清志
教育長　大浦幸一郎

北海道教育委員会
後志地方教育局

局長　中藤哲郎

余市町教職員研修会

会長　横谷静夫

余市町校長会

会長　市川汪

余市町教育研究所

運営委員長　高田重幸
所長　鳴井捨市

北教組後志地区協議会

協議会長　森崎義美

北教組余市支部

支部長　宮篤

余市郡漁業協同組合

組合長理事　松平武一

祝 第13回

全道造形教育研究大会

余市町西農業協同組合

組合長理事 河野晴一

余市観光協会

会長 吉田増次

副会長 五十嵐留治

〃 福範経

〃 中村健一

事務局長 伊藤勝美

余市商工会議所

会頭 藤田幸夫

副会頭 糠塚清治

〃 五十嵐留治

専務 目黒幸男

余市商店街協議会

会長 計良幸太郎

祝 第13回

全道造形教育研究大会

後志信用金庫

理事長 藤田幸夫

北海道拓殖銀行余市支店

支店長 佐藤春雄

北洋相互銀行余市支店

支店長 川崎正喜

北海道相互銀行余市支店

支店長 宮田史朗

祝 第13回 全道造形教育大会

余市農業協同組合

組合長理事 三宅武三

選ばれたうまさを贈る!!

ニッカウヰスキー

余市黒川町 ニッカウヰスキー株式会社余市工場

明るい生活設計に商連クーポンをどうぞ！

余市商店連盟

理事長 藤田茂樹

T 2117

農機具と金物のデパート

三菱電機ストアー店

清水商事株式会社

社長 児島長一

大川町4丁目 T 代表 2111

道内主要都市を結ぶ路線

北海道中央バス株式会社

祝 全道造形教育余市大会

興濱産業株式會社

余市町浜中町 T 代表 2181

株式会社 港鉄工所

社長 坂本喜一郎

T 余市町港町 二三二三

伊藤冷蔵株式会社

社長 伊藤猛勇

余市町浜中町 T 三六一二

活版•オフセット印刷•製本

有限会社 余市商工社

久留宮

余市町大川町4丁目98

TEL 2232

水上木材株式会社

余市出張所

余市町黒川町七丁目 T 三八三〇

内科 勝田医院
亀山泰久 T 3989

耳鼻咽喉科 菅原医院
菅原英夫 T 3550

外科 整形科 斎藤医院
斎藤弘行 T 3796

橘眼科医院
橘 正幸 T 2820

産婦人科 鷲見医院
鷲見良彦 T 3843

郷土の銘酒
十一州
北海道酒造株式会社
社長 阿部寅之丞
余市町大川町四丁目
T 二一八四

祝 造形教育大会
北酒販
余市町大川町2丁目
T 2022

水野歯科医院
水野敏郎
T 三三九一

荒木歯科医院
余市町黒川町二丁目
T 三九七三

青野歯科医院
青野湊
T 三〇八九

鳥井歯科医院
鳥井東洋太郎
T 二七二〇

果実問屋
株式会社 武屋
品田武司
余市町黒川町八丁目
T 三九七一

食料品
株式会社 今安田商店
安田甚吉
余市町黒川町十丁目
T 二〇一二

五 石田呉服店
石田五十松
余市町富沢町四丁目
T 二〇三七

祝 全道造形教育大会
糠塚水産株式会社
社長 糠塚清治
専務 糠塚清蔵
余市町富沢町3丁目 T (代) 3350

粘土教材
野幌陶芸社
社主 野田勘次
江別市野幌町九番地
電話(江別)七三七番

大関文房具店
余市町大川町三丁目
T 二二〇四

文房具
出路商店
余市町大川町三丁目
T 二二二七

パンの
銀鈴荘
余市町黒川町三丁目
T三三五二

本多運動具店
本多正之
余市町黒川町銀座街
T三八二五

創業二十五年
吉田ミシン株式会社
社長 吉田哲夫
余市町黒川町銀座街
T二〇一八

和田時計・眼鏡店
和田多喜雄
余市町黒川町銀座街
T二四三五

果実問屋
山本りんご店
山本繁太郎
余市町黒川町三丁目
T三八一七

ステレオ・レコードの
藤平電気株式会社
余市町黒川町銀座街
T三五六六

靴の
イガラシ
余市町黒川町銀座街
T三三九四

三興土建工業株式会社
久保勝利
余市町黒川町四丁目
T二〇〇一

田中火薬店
余市町入舟町三一二
T三九五一

日本軽量ブロック株式会社
余市町黒川町10丁目23
T（代）3145

ヨツカ・ジュース
余市産業株式会社
余市合同青果物卸売市場
代表 野呂小七郎
余市町黒川町八丁目
T三二七九

余市ハイヤー株式会社
社長 岡田武夫
専務 岡田正男
T三三一
一一一
一一一
三二一

内科 小児科
小島医院
小島敏之 T2245

内科
吉田医院
吉田一 T2210

内科
遠田医院
遠田久俊 T2519

社会福祉法人 余市協会病院
院長 高橋一雄
内科 小児科 医長 越田耕三
外科・皮膚科 泌尿器科 高野尻慶一
一般外科 医長 高橋一雄
整形外科 医長 豊田内宏
耳鼻咽喉科 繁野英一
産婦人科 医長 中野日出男
薬局長 中垣成吾
事務長 服部乙二郎

土木建築
笹森組
笹森一男
電話三七九八番

優雅な色彩の表現に！
ギターパス
ギターペイント
マジックインキ
本舗　寺西化学工業株式会社
大阪　東京

ぺんてる
ぺんてるくれよん
ぺんてるそめーる
ディズニーぺんぐ

のりしろのいらない
学校工作用
セメダイン
ダンボール、マッチ軸木
貝がら、金属、プラスチック
ゴムをつかつた工作に
東京セメダイン商事株式会社

内海歯科医院
内海和雄
T三八四五

中央薬局
藤田茂樹
余市町黒川町
T三四九二

石炭の御用命は
小樽石炭
余市営業所へ
余市町黒川町4丁目
T 3266

◆…体育器具の設備と運動具…◆
有限会社 学友社
代表取締役 坂原義弘
札幌市南1条西6丁目　T②6243

山本時計店
楽器部
余市町黒川町銀座街
T二五二九

丸喜屋
計良呉服店
計良幸太郎
余市町黒川町銀座街
T三二七〇

島田呉服店
島田英
余市町黒川町銀座街
T二〇五九

祝 全道造形教育研究大会

計量器、学校教材、測量器、製図器
理化器械、気象器械、事務用品

竹井衡機株式会社

小樽市稲穂町東7丁目25 〒② 1212

祝 全道造形教育余市大会

教材教具

森山菊治商会

小樽市花園町西2丁目6番地 〒③ 1965

さくらクレパス
さくらクレヨン
さくらマット水彩
さくらカラーインキ

クレパス本舗 株式会社 桜商会

第13回全道造形教育研究大会役員一覧表

北海道造形教育連盟委員長	野村英夫
余市町教育委員会 教育長	大浦幸一郎
後志地方教育局長	中藤哲郎
運営委員長	大浦幸一郎（教育長）
運営副委員長	横谷静夫（黒川小学校長）

総務

係	氏名	所属
	藤崎 稔	（大川小長）
	鳴井 拾市	（沢町小長）
	石村 末広	（豊浜小長）
	鈴木 恵雄	（栄 小長）
	越野 二郎	（登 小長）
	水野 幸徳	（豊丘小長）
	木村 実茂	（桜ケ丘小長）
	佐々木 俊雄	（島泊小長）
	水岡 隆	（白岩小長）
	金田 小太郎	（東 中長）
	市川 治	（西 中長）
	横村 冨郎	（旭 中長）
	森水 武夫	（豊浜中長）

事務局

係	氏名	所属
局長	高野 年男	（沢町小教）
次長	武川 康彦	（ 〃 ）
	吉田 邦夫	（町教委）
	小野 治男	（ 〃 〃 ）
	木村 勝己	（ 〃 〃 ）
	佐藤 尋子	（ 〃 〃 ）
	斎藤 寿光	（ 〃 〃 ）

庶務

係	氏名	所属
	◎土井 頸	（西 中教）
	◎牧野 信行	（沢町小教）
	市川 粧子	（沢町小教）
受付‥	佐々木 達雄	（沢町小教）
・	山本 義一	（西 中教）
	蒲生 孝	（沢町小教）
	大平 昌明	（西中 教）
	河村 征子	（沢町 小）
	穂井田 一也	（西中 教）
	[illegible]藤 陽子	（ 〃 ）
会計‥	納田 信一	（沢町小事）
[illegible]‥	[illegible] 正	（西中 教）
・	[illegible] 雄	（沢町小教）
	[illegible]	（ 〃 ）
	[illegible]	（ 〃 ）
	[illegible]	（ 〃 ）
	[illegible]	（西中 教）
	[illegible]	[illegible]
[illegible]‥	[illegible]	[illegible]
	[illegible]	[illegible]
	[illegible]田 敬継	（黒川小教）
	[illegible]住 義助	（黒川中 教）
	[illegible]谷 善久	（黒川小事）
	[illegible]杉 賢三	（黒川 〃 ）
	[illegible]居 泰治	（ 〃 ）
	[illegible]田 喜一郎	（ 〃 ）
	[illegible]木 哲郎	（ 〃 ）
	[illegible]口 夫	（ 〃 ）
	[illegible]花 克寛	（ 〃 ）
	[illegible]住 義明	（ 〃 ）
	[illegible]木 良一	（ 〃 ）
	[illegible]谷 利治	（ 〃 ）
	[illegible]戸 通	（ ）

係	氏名	所属
	高津戸 義信	（ 〃 ）
	船水 和夫	（ 〃 ）
展覧会‥	石川 精一	（ 〃 ）
	飯坂 八太郎	（ 〃 ）
	後藤田 信	（ 〃 ）
	板木 吉滝	（ 〃 ）
表示‥	三浦 秀正	（ 〃 ）
放送‥	小野寺 佶	（ 〃 ）
	久保 忠夫	（ 〃 ）
救護‥	三本木 郁	（大川小養）
	佐藤 由佳子	（黒川小養）
	実藤 教子	（沢町小養）
接待‥	大住 敬助	（東中 教）
	吉田 美代	（ 〃 ）
	河村 陽一	（ 〃 ）
	辻 征二	（ 〃 事）
	池端 喜蔵	（黒川 小）
	池端 サザ	（ 〃 ）
	船木 なみ	（ 〃 ）
	塚本 範子	（ 〃 ）
	高橋 桂子	（ 〃 ）
	青木 綾子	（ 〃 ）
	香賀 くにえ	（ 〃 ）
売店・	水井 よしの	（黒川小教）
	但馬 和子	（ 〃 ）
	木村 あき	（ 〃 ）
	葛原 繁子	（ 〃 ）
	阿部 操	（ 〃 ）
	市川 通子	（ 〃 ）

宿泊　観光　パーテー

係	氏名	所属
	◎中村 勤	（大川小教）
	◎及川 覚明	（旭中 教）
	◎外崎 義一	（豊浜小教）
	◎渡辺 十四彦	（〃 中教）
宿泊‥	及川 覚明	（旭 中教）
・	中村 勤	（大川小教）
	石田 七蔵	（ 〃 ）
	久保 欣也	（ 〃 ）
	杉淵 昭吾	（ 〃 ）
	安川 真吉	（ 〃 ）
	佐藤 久	（ 〃 ）
	小山内 愛子	（ 〃 ）
観光‥	外崎 義一	（豊浜小教）
	渡辺 十四彦	（〃 中教）
	猪股 隆	（旭中 教）
	池田 清実	（ 〃 ）
	斎藤 哲夫	（ 〃 ）
	葛西 ミサ	（ 〃 ）
	江田 英子	（ 〃 ）
パーテー‥	中村 勤	（大川小教）
・	及川 覚明	（旭中 〃）
	中恵 正	（大川小〃）
	鈴木 重規	（ 〃 ）
	川島 忠雄	（ 〃 ）
	横村 孝二	（ 〃 ）
	脇坂 文夫	（ 〃 ）
	村山 政弘	（旭中 〃）
	藤原 昭三	（ 〃 ）
	川上 文夫	（ 〃 ）
	木村 家久	（ 〃 ）
	気田 正幸	（ 〃 ）

東司会者、提言者、授業者、記録者、リクリエーション係、は省略。
◎部長兼総務　‥係長　・副係長。

会場図

○授業教室
●部会（２日目）
△控室（１日目）
▲ 〃 （２日目）
印なし分科会（１日目）

上階

- 14 △● 中部分
- △ 小（描）
- 15 △ 小（版）
- 16 △ 小（彫）
- △● 綜合部会
- 17 △ 小デ
- 18 △ 小工
- ○中３年
- 30 中（デ）
- ○中２年
- 29 高校（デ）
- ▲● 高校部会
- ○中１年 28
- ○５年（小）特殊 27
- ○４年（小） 26
- △ 中（描）
- △ 父母 19
- △ 幼稚園図書 20
- メーカー展示室 21
- メーカー展示室 22
- △ 中（彫） 23
- ○ 単復 24
- ○ 3年（小） 25
- △ 中（版）

下階

- W．C
- △ 単復 13
- △ 中（デ） 12
- △ 高校 11
- △ 特殊 10
- 授業記録 9 地区委員
- 全体会場
  - 1日目 開会式
  - パネル
  - リクリエーション
  - 2日目 小部会、講演、作品
  - 閉会式
- 焼かま
- W.C
- 救ご室
- ○ 特殊 1
- △ リクリエーション児童 2
- ○ 1年（小）
- ○ 2年（小） 3
- ○ 2年（小） 4
- △ 婦人部
- △ 5 中生徒
- 講師提言招待者 8
- 司会提言 7
- 運営本部 6
- 職員室
- 来ひん

町内児童、父兄入口　講師、来賓、役員入口　一般会員入口